

Veritas NetBackup™ リリースノート

リリース 8.0

マニュアルバージョン 2

Veritas NetBackup™ リリースノート

法的通知と登録商標

Copyright © 2016 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、NetBackup は Veritas Technologies LLC または同社の米国とその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、サードパーティ（「サードパーティプログラム」）の所有物であることをベリタスが示す必要のあるサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このベリタス製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所です。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のままで提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC は、本書の提供、内容の実施、また本書の利用によって偶発的あるいは必然的に生じる損害については責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商業用コンピュータソフトウェアと見なされ、場合に応じて、FAR 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202、「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により制限された権利の対象となります。業務用またはホスト対象サービスとしてベリタスによって提供されている場合でも同様です。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
500 E Middlefield Road
Mountain View, CA 94043

<http://www.veritas.com>

.

テクニカルサポート

テクニカルサポートは世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、お客様のサポート契約およびその時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供

されます。サポートサービスとテクニカルサポートへの問い合わせ方法については、次の弊社の Web サイトにアクセスしてください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP.html

次の URL でベリタスアカウントの情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

既存のサポート契約に関する質問については、次に示す地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界全域 (日本を除く)

CustomerCare@veritas.com

Japan (日本)

CustomerCare_Japan@veritas.com

マニュアル

マニュアルの最新バージョンがあることを確認してください。各マニュアルには、2 ページに最終更新日付が記載されています。最新のマニュアルは、次のベリタス Web サイトで入手できます。

<https://sort.veritas.com/documents>

マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

NB.doc@veritas.com

次のベリタスコミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

<http://www.veritas.com/community/ja>

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) の表示

ベリタスの Service and Operations Readiness Tools (SORT) は、時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する Web サイトです。製品によって異なりますが、SORT はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。SORT がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf

目次

第 1 章	NetBackup 8.0 について	12
	NetBackup 8.0 のリリースについて	12
	NetBackup の最新情報について	13
	NetBackup サードパーティの法的通知について	13
	NetBackup のサードパーティコンポーネントについて	13
第 2 章	新機能、拡張機能および変更	15
	NetBackup の新しい拡張と変更について	15
	NetBackup 8.0 の新機能、拡張機能、変更点	15
	NetBackup サーバーで RFC 1123 と RFC 952 に準拠したホスト名 を使用する必要がある	16
	NetBackup 8.0 の追加サポート	16
	NetBackup ホスト用のセキュリティ証明書について	16
	MSDP の新しい暗号化アルゴリズム	17
	nbcomponentupdate ユーティリティを使った JRE の更新	17
	保持レベルが 100 に拡張されました	17
	NDMP を使った Isilon ファイルの MSDP ストリームハンドラの拡張機 能	18
	いくつかのシャットダウンコマンドが将来のリリースで廃止される予定	18
	bpmedialist -count オプションは今後のリリースで非推奨になる	18
	FTP サーバーにログをアップロードする機能の削除	19
	nbdeployutil の増分レポート機能	19
	OpsCenter データベースのデフォルトパスワードの変更	19
	OpsCenter インターフェースには HTTPS プロトコルが必要	19
	NetBackup 8.0 で有効化される Web サービス	20
	Microsoft Azure クラウドのサポート	20
	NetBackup CloudStore サービスコンテナ (nbcssc) サービスは、クラ スタ環境で高可用性を実現	20
	NetBackup CloudStore Service Container の証明書ベースの認証 の使用	20
	クラウドストレージ管理	21
	クラスタ環境にクラウドストレージ構成のサポートが追加	21
	クラウドストレージの構成ファイルのために新しいディレクトリが追加	21

クラウドストレージ構成ファイルのファイルパスの変更	21
SharePoint 2016 Local System アカウントの要件	22
Linux 仮想マシンの SYMCQuiesce のサポートを今後のリリースで廃止	22
VM バックアップのファイルマッピングの機能強化	22
VMware の耐障害性 VM のサポート	22
Linux での VMware SAN マルチパスのサポート	22
個別の VMware 仮想マシンディスクのリストアに関する追加サポート	23
VMware Web Client プラグインのタイムゾーンの制限の削除	23
NVMe コントローラを備えた VMware VM のバックアップはサポートされない	23
Windows Server 2016 上の Hyper-V 仮想マシン的高速バックアップ	23

第 3 章

操作上の注意事項	25
NetBackup 8.0 の操作上の注意事項について	26
NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項	26
インストール DVD を挿入すると表示されるメニューからインストールしない してください	26
HP-UX ItaniumのvPars SRPのコンテナのサポートについて	26
AIX 7.1 で起きる可能性がある Java エラー	27
NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項	27
2.6 より後のカーネルバージョンで実行している SUSE 11 で起きる問題	28
IPv6 アドレスをクライアント名またはイメージ名として使う場合の NetBackup の制限事項	28
NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項	28
NetBackup 管理コンソールを実行するためのメモリ要件	29
X フォワーディングを使った NetBackup 管理コンソールの起動が特定の Linux プラットフォーム上で失敗することがある	29
NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングで断続的に問題が 発生する	29
NetBackup の 管理コンソールの初期化時に機能が低下する	29
Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使うと、 NetBackup 管理コンソールのコアダンプの問題が発生する場合 がある	30
NetBackup アクセラレータの操作上の注意事項	30
マスターサーバー、メディアサーバー、クライアントサーバーの Accelerator バージョンの必要条件	30

仮想化されたサーバーの Accelerator と Replication Director のサ ポートは、一緒に設定できない	30
NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項	30
BTRFS ファイルシステムのサブボリュームおよびそのスナップショット がサポートされない	31
ブートサーバーが Solaris 10 Update 11 の基本インストールを装備 している場合、 SRT の作成は失敗することがある	31
Solaris 11 以降で devfsadm エラーが発生することがある	31
システムブート中や BMR の初回ブート中に Solaris 11 の多くのサー ビスが警告メッセージを表示する	31
BMR のリストア後の初回ブート時に、 Solaris 11 以降の Solaris ゾー ンリカバリを再構成するまでに時間がかかる	32
テキストインストーラのパッケージがカスタマイズされた AI ISO 内に存 在しない場合、 Solaris BMR のリストア操作に失敗する	32
クライアントを仮想マシンに変換にした後、 OS の構成に時間がかかる	32
/etc/mke2fs.conf ファイルをリストアすると、アクティビティモニターにリ ストアタスクが部分的に完了したと表示される	33
BMR リストア中に ZFS の一時マウントが失敗する	33
RHEL 6 で BMR リストアを実行すると問題が発生することがある	33
RHEL システムで基本サーバーインストールを実行している場合、 BMR がメディア SRT の作成に失敗する	34
BMR リストア後の初回起動中にすべてのファイルシステムのラベルが 付け替えられる	34
複数のデバイスに基づく OS 構成では /boot パーティションが独立し たパーティション上になければならない	34
ZFS ストレージプールを使ったクライアントのリストア後、初回のブート 中に、複数のエラーメッセージが表示されることがある	34
BMR が ZFS メタデータをフォーマットまたは消去しないことがある	35
BMR でサポートされた 2 つのマルチパスソリューションを共存させる と問題が生じることがある	35
ディスクの命名が原因で Citrix XenCenter 仮想化で BMR バックアッ プに失敗することがある	36
SFW がインストールされている Windows 2008 R2 システムによって は、 NetBackup システム状態のバックアップに失敗することがあ る	36
自動イメージレプリケーションおよび BMR を使って保護する場合のク ライアントの短縮名の指定	36
クライアントリストアの成功後もリストアタスクがディザスタリカバリドメイン に完了状態で保持されることがある	37
BMR の IPv6 サポート	38

VxFS7 ベースのファイルの作成中にエラーが発生することがある	38
リストア後に HP-UX の自動ブートに失敗することがある	38
Solaris クライアントのリストア準備が機能しないことがある	39
NetBackup クラウドの操作上の注意事項	39
カタログのバックアップ先をクラウドストレージにした場合にカタログリカ バリに失敗する	39
IPv6 対応の Windows Server 2008 R2 が実行されているホストで Rackspace プラグインが使われている場合、ネットワーク接続問 題が発生することがある	40
NetBackup クラスタの操作上の注意事項	40
クラスタ化された環境では、仮想名を IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの 両方に解決することはできない	40
NetBackup クラスタのインストールに関する注意事項	41
NetBackup データベースとアプリケーションエージェントの操作上の注意 事項	42
NetBackup for DB2 の操作上の注意事項	42
NetBackup for Exchange の操作上の注意事項	42
NetBackup の操作上の注意事項	43
NetBackup 重複排除に関する注意事項	44
NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項	44
データベースエージェントとアプリケーションエージェントでは、サポー ト対象のすべてのプラットフォームについて、ローカライズされた 環境のサポートが制限される	44
英語版と同じバージョンレベルではない言語パックを実行しない	
4	5
NetBackup LiveUpdate の操作上の注意事項	45
LiveUpdate を使って NetBackup 8.0 のインストールまたはこのパー ジョンへのアップグレードを試みると、対象ホストに互換性のない バージョンの Java JRE がインストールされていることが原因で失 敗することがある	45
プッシュインストールとサイレントインストール方式では、パッケージの 一部として LiveUpdate エージェントがインストールされない	45
LiveUpdate を使って HP PA-RISC クライアントを NetBackup 7.6 に アップグレードするときのエラー	46
NetBackup for NDMP の操作上の注意事項	47
NDMP 多重化 (MPX) リストアが過度のログメッセージを生成したこと が原因で、アクティビティモニターがハングアップすることがある	47
ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないこと がある	47
NetBackup OpsCenter の操作上の注意事項	48

デフォルト以外の場所にあるデータベースをリストアするときにリストア ディレクトリを指定すると OpsCenter Web ユーザーインターフェー スのログインが失敗する	48
ベリタスのロゴが付いている新しい UI を表示するための Web ブラウ ザのキャッシュを消去する	49
database.conf がデフォルト以外のインストール場所为上書きされる	49
alert.conf の水準点の別のしきい値を設定できない	49
Web ブラウザによって決定されたレポートのエクスポート先の場所	49
アンパサンドが原因で編集できない	50
Korn シェルがインストールされていないと UNIX システム上の OpsCenter にログインできない	50
サーバーに到達できないことが原因でクラウドの計測データの収集が 失敗する	50
View Builder でオブジェクトがアタッチされたノードを移動するときに そのノードが一時的に表示されなくなる	51
ストレージユニットパスが 256 文字を超えるとデータ収集が失敗する	51
[アクセラレータジョブのみ含める (Include Accelerator Job Only)] が 選択されているとレポートが空になる	51
参照機能は IE8 でサポートされない	51
クライアントの参照と選択機能で、 NetApp ボリュームが Replication Director VM バックアップのクライアント名として表示される	52
添付ファイルのサイズが大きすぎるとレポートの電子メールが配信され ない	52
新しいユーザーがログオンするまでそれらのユーザーにアラートを割 り当てることができない	52
[ユーザープロファイルのコピー (Copy User Profile)] に新しいユー ザーが表示されない	52
サーバーパスワードに HTML 文字が含まれていると Backup Exec のデータ収集が失敗する	53
OpsCenter Monitor の[ファイルリスト (File List)]タブに実行中のジョ ブが表示されない	53
サブグループ名に特殊文字が含まれているとユーザーが認可されな い	53
サードパーティユーティリティを実行した後に、 JAVA_HOME 変数ま たは JRE_HOME 変数が未定義になる	53
[監視 (Monitor)] インターフェースと[ビュー (Views)] インターフェー スのエントリが重複する	54
ポート 1556 が双方向に開かれていないと、マスターサーバー上でジョ ブ収集が失敗する	54
キャパシティライセンスレポートの実行	55

SFR タイムラインのデータ形式が「不明」と示される	55
OpsCenter では、異なるタブまたはウィンドウからの同一ユーザーセッ ションに対して同時に複数のレポートを作成または編集すること ができない	55
レポート対象がストレージユニット名に設定されていると、重複排除レ ポートにデータが表示されない	55
VMware と Hyper-V での検索操作と復元操作	55
50 を超える項目を含むファイル選択リストは OpsCenter に表示され ない	56
OpsCenter は分割ジョブをパージするオプションを提供しない	56
複数の結果セットがあるストアプロセスの一部の結果セットが表 示されないことがある	56
Windows での仮想ホスト名の文字数制限	56
一部のレポートは完全および増分スケジュール形式のジョブのみを考 慮する場合がある	57
OpsCenter のオブジェクトの結合ユーティリティがマスターサーバー で失敗する	57
NetBackup のアップグレード後に、OpsCenter サーバーがマスター サーバーからのイベントの受信を停止する	57
[監視 (Monitor)]>[ホスト (Hosts)]>[クライアント (Clients)] ページか らクライアントを検索できる (属性では検索できない)	58
ジョブ数作業負荷アナライザの合計規則	58
OpsCenter の履歴サポートでの夏時間のサポート	58
OpsCenter は IPv6 のみのサーバーを監視できない	58
NetBackup ディスクプールのサイズと使用率の比較レポートに不正な データが表示される	59
Windows コンピュータ上のリモート OpsCenter View Builder から OpsCenter サーバーにアクセスする際の問題	59
NetBackup レプリケーションディレクトリの操作上の注意事項	59
NBUPlugin 1.1 で指定した時点へのリストア後に複製が失敗する	60
NBUPlugin 1.1 の複製がエラーコード 84 で失敗する	60
[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)] インターフェースのファイルを参照する際のデータベ ースシステムエラー	61
ログレベルが 4 以上に設定されているとインデックスログが肥大化す る	61
vCenter 2.5 または ESX 3.5 以前を実行している仮想マシンで検出 が失敗する	61
ストレージの読み込み速度が遅いと、NetBackup Accelerator を使っ た SLP でのバックアップが状態コード 13 で失敗する	61
Linux で、NFS マウントのスナップショットが状態コード 20 で失敗す る	62

	NetApp Plug-in for NetBackup 1.0.1 が特定の状況下でクラッシュする	62
	特定の状況下で、NetApp Plug-in for NetBackup 1.0.1 で複製に失敗することがある	62
	[プライマリ (Primary)]>[ミラートポロジ (Mirror Topology)]のポリシーのすべてのイメージを処理するときにスナップショットの漏えいが発生する	63
	ボリュームレベルでの別の差分バックアップを使ったリストアはデータ損失の原因になる	63
	qtree が DFM サーバーで更新されていない場合 SnapVault レプリケーションはデータ損失の原因になる場合がある	63
	Replication Director のポリシー検証が完了するのに時間がかかる	64
	NetBackup Snapshot Client の操作上の注意事項	64
	アレイ上の VxVM ディスクグループに VxVM ボリュームのソフトウェアベースのスナップショットが含まれていると、ディスクアレイのスナップショットを作成できない	64
	NetBackup 仮想化の操作上の注意事項	65
	NetBackup for VMware の操作上の注意事項	65
	NetBackup for Hyper-V の操作上の注意事項	66
	Microsoft SCVMM (System Center Virtual Machine Manager) コンソール用 NetBackup アドインの操作上の注意事項	68
付録 A	NetBackup ユーザーの SORT について	71
	Veritas Services and Operations Readiness Tools について	71
	SORT の新規インストールのための推奨手順	72
	SORT のアップグレードのための推奨手順	76
付録 B	NetBackup のインストール要件	79
	NetBackup のインストール要件について	79
	NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新	81
	NetBackup 8.0 のバイナリサイズ	84
付録 C	NetBackup の互換性の要件	87
	NetBackup の互換性リストと情報について	87
	NetBackup の End-of-Life のお知らせについて	88

付録 D	他のNetBackup マニュアルおよび関連マニュアル	90
		90
	NetBackup の関連マニュアルについて	90
	NetBackup リリースノートについて	91
	NetBackup 管理者ガイドについて	91
	NetBackup オプションの管理について	91
	NetBackup データベースエージェントの管理について	94
	NetBackup のインストールマニュアルについて	95
	NetBackup の構成マニュアルについて	96
	NetBackup のトラブルシューティングマニュアルについて	96
	その他の NetBackup のマニュアルについて	96

NetBackup 8.0 について

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 8.0 のリリースについて](#)
- [NetBackup の最新情報について](#)
- [NetBackup サードパーティの法的通知について](#)
- [NetBackup のサードパーティコンポーネントについて](#)

NetBackup 8.0 のリリースについて

『NetBackup リリースノート』のドキュメントは NetBackup のバージョンのリリースに関する情報のスナップショットとして機能します。古い情報およびリリースに適用しない情報はリリースノートから削除されるか、または NetBackup のマニュアルセットの別の所に移行されます。

p.15 の「[NetBackup の新しい拡張と変更について](#)」を参照してください。

EEB およびリリース内容について

NetBackup 8.0 には、以前のバージョンの NetBackup で顧客に影響を与えていた既知の問題の多くに対する修正が組み込まれています。これらの修正のいくつかは Titan または Salesforce.com (SFDC) のケースの形で文書化された顧客固有の問題に関連しています。このリリースに組み込まれた顧客関連の修正のいくつかは、Emergency Engineering Binary (EEB) として利用可能になりました。

NetBackup 8.0 で修正された既知の問題を示す EEB および Etrack のリストは、Veritas Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトと、『[NetBackup Emergency Engineering Binary ガイド](#)』にあります。

p.71 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup アプライアンスのリリースについて

NetBackup アプライアンスは、事前設定バージョンの NetBackup を含むソフトウェアパッケージを実行します。新しいアプライアンスソフトウェアリリースの開発時、NetBackup の最新バージョンがアプライアンスコードの構築基盤として使われます。たとえば、NetBackup Appliance 3.0 は NetBackup 8.0 を基盤としています。この開発モデルにより、NetBackup 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

NetBackup アプライアンスソフトウェアは、その構築基盤となる NetBackup リリースと同時に、またはそのすぐ後にリリースされます。NetBackup アプライアンスを利用する場合、実行する NetBackup アプライアンスバージョンの『NetBackup リリースノート』を確認する必要があります。

アプライアンス固有のマニュアルは次の場所から入手できます。

<http://www.veritas.com/docs/000002217>

NetBackup の最新情報について

NetBackup の最新情報や発表については、次の場所から利用可能な NetBackup の最新情報 Web サイトを参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000040237>

他の NetBackup 固有の情報は、次の場所から提供されています。

https://www.veritas.com/support/en_US/15143.html

NetBackup サードパーティの法的通知について

NetBackup には、ベリタスによる所有者の掲示が義務付けられているサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。NetBackup に含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。

これらのサードパーティプログラムの所有権通知とライセンスは、次の Web サイトで入手できる『NetBackup サードパーティの法的通知』文書に記載されています。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

NetBackup のサードパーティコンポーネントについて

次の表に、NetBackup 8.0 によってインストールされる最も有名なサードパーティコンポーネントの一部を示します。

表 1-1 NetBackup 8.0 のサードパーティコンポーネント

サードパー ティ	バージョン
Java Runtime Environment (JRE)	■ IBM AIX (rs6000) 8.0.3.0 ■ IBM zLinux 8.0.3.0 ■ HP-UX (hpia64) 8.0.0.6 ■ Linux (RedHat、 SuSE) 8u101 ■ Solaris (sparc、x86) 8u101 ■ Microsoft Windows 8u101

新機能、拡張機能および変更

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の新しい拡張と変更について](#)
- [NetBackup 8.0 の新機能、拡張機能、変更点](#)

NetBackup の新しい拡張と変更について

NetBackup リリースには、新機能および製品修正に加えて顧客対応の新しい拡張と変更が含まれることがよくあります。よくある拡張の例には、新しいプラットフォームのサポート、アップグレードされた内部ソフトウェアコンポーネント、インターフェースの変更、拡張された機能のサポートなどがあります。新しい拡張と変更のほとんどは、『NetBackup リリースノート』および NetBackup の互換性リストに文書化されます。

メモ: 『NetBackup リリースノート』には、特定の NetBackup バージョンレベルでそのリリースのタイミングで開始される新しいプラットフォームサポートのみがリストされます。ただし、Veritas によって、以前のバージョンの NetBackup へのプラットフォームサポートのバックデートが定期的に行われます。最新のプラットフォームサポートのリストについては、NetBackup の互換性リストを参照する必要があります。

p.12 の「[NetBackup 8.0 のリリースについて](#)」を参照してください。

p.87 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

NetBackup 8.0 の新機能、拡張機能、変更点

NetBackup 8.0 の新機能

NetBackup サーバーで RFC 1123 と RFC 952 に準拠したホスト名を使用する必要がある

NetBackup 8.0 以降では、すべての NetBackup サーバー名に RFC 1123 (「Requirements for Internet Hosts - Application and Support」) と RFC 952 (「DOD Internet Host Table Specification」) の規格に準拠するホスト名を使用する必要があります。これらの規格には、ホスト名に使用できる文字と使用できない文字が規定されています。たとえば、ホスト名にアンダースコア文字 (_) は使用できません。

これらの規格とこの問題に関して詳しくは、次の資料を参照してください。

[RFC 952](#)

[RFC 1123](#)

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000125019

NetBackup 8.0 の追加サポート

NetBackup 8.0 より、次の製品およびサービスのサポートが開始されます。

- VMware Backup Server vSphere 6.0 とその更新 – VDDK 6.0.2
- クライアント – Windows Server 2016 (クライアント、ファイルシステム)
- SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 12 SP-1 上のクライアントとブートサーバーに対する Bare Metal Restore (BMR) のサポート
- Enterprise Vault 12
- Hyper-V for Windows Server 2016

サポートされている製品およびサービスについて詳しくは、次を参照してください。

p.87 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

NetBackup ホスト用のセキュリティ証明書について

NetBackup 8.0 では、NetBackup マスターサーバーによって割り当てられた UUID (Universally Unique Identifiers) に基づいたホスト ID ベースの証明書が導入されています。8.0 より前のバージョンで生成されたセキュリティ証明書は現在、ホスト名ベースの証明書と呼ばれます。NetBackup 管理コンソールを使って接続するときには、両方の種類のセキュリティ証明書がターゲットの NetBackup ホストで必要になります。Java バックアップ、アーカイブおよびリストアユーザーインターフェースを使う場合は、ターゲットの NetBackup ホストでホスト ID ベースの証明書のみが必要です。

両方の種類のセキュリティ証明書の配備、管理、使用について詳しくは、次のガイドを参照してください。

- NetBackup 管理者ガイド Vol. 1

- セキュリティおよび暗号化ガイド
- コマンドリファレンスガイド

MSDP の新しい暗号化アルゴリズム

NetBackup 8.0 では、メディアサーバー重複排除プール (MSDP) に新しい暗号化アルゴリズムが導入されています。Advanced Encryption Standard 256 ビットの CTR (AES) により、古い Blowfish 暗号化アルゴリズムが置換されています。データ互換性を確保するため、MSDP は Blowfish と AES の両方の暗号化データをサポートし、管理します。既存のバックアップ操作、最適化された重複排除、レプリケーションでは、データは引き続き Blowfish アルゴリズムで暗号化されます。MSDP は、以前のバックアップイメージのリストアにおいて Blowfish データを認識してサポートします。インラインデータ変換は、バックアップ、重複排除、またはレプリケーションの操作の処理中に同時に実行されるため、パフォーマンスに影響を及ぼす場合があります。MSDP の変更についての詳しい情報を参照できます。『Veritas NetBackup 重複排除ガイド』を参照してください。

nbcomponentupdate ユーティリティを使った JRE の更新

NetBackup 8.0 までは、NetBackup / OpsCenter インストーラにバンドル化されていた JRE (Java Runtime Environment) は、ユーザーが新しい NetBackup リリースにアップグレードした場合にのみアップグレードされていました。NetBackup 7.7 以降、ユーザーは nbcomponentupdate ユーティリティを使っていつでも JRE を手動で更新できます。nbcomponentupdate ユーティリティは、次の製品において JRE の更新をサポートします。

- NetBackup マスターサーバー、メディアサーバー、クライアント
- NetBackup リモート管理コンソール
- OpsCenter Server、エージェント、View Builder

メモ: nbcomponentupdate では、vCenter 用 NetBackup プラグインの JRE を更新できません。

nbcomponentupdate コマンドとパラメータについて詳しくは、『NetBackup™ コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

nbcomponentupdate ユーティリティについて詳しくは、次の記事を参照してください。
https://www.veritas.com/support/en_US/article.000115043

保持レベルが 100 に拡張されました

NetBackup 8.0 は、最大 100 の保持レベルをサポートします。保持レベルを 0 から 100 の間で選択できるようになりました。デフォルトでは、保持レベル 9 から 100 (25 を除く)

の保持期間は、無限に設定されています。保持レベル 25 の保持期間はただちに期限切れとなるよう設定されており、これを変更することはできませんのでご注意ください。

詳しくは、『NetBackup™ 管理者ガイド Vol. 1』の「[保持期間 (Retention Periods)]」プロパティ」を参照してください。

NDMP を使った Isilon ファイラの MSDP ストリームハンドラの拡張機能

この NetBackup のリリースには、MSDP ストリームハンドラの拡張機能が含まれています。これらの拡張機能は、NDMP を使って Isilon ファイラから MSDP にデータを書き込むときの重複排除率を向上します。これらの拡張機能を活用するための追加のセットアップまたは構成は不要です。

いくつかのシャットダウンコマンドが将来のリリースで廃止される予定

NetBackup プロセスとデーモンのシャットダウン用の新しい、詳細に文書化されたコマンドが今後のリリースで提供される予定です。その時点で、次のコマンドは利用できなくなります。

- bp.kill_all
- bpdown
- bpclusterkill

この変更に応じた計画を立ててください。新しいコマンドは、今後のリリースノートおよび『NetBackup コマンドリファレンスガイド』で発表されます。

bpmedialist -count オプションは今後のリリースで非推奨になる

この問題を回避するには、vmoprcmd などの別の手段を使ってこの情報を取得します。vmoprcmd コマンドまたはその他のコマンドについて詳しくは、『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください

次に例を示します:

```
root@myhost # /usr/volmgr/bin/vmoprcmd -dp ds -h myhost
```

DRIVE STATUS

Drv	DrivePath	Status	Label	Ready
0	/dev/nst0	UP	-	No
1	/dev/nst1	UP	-	No

FTP サーバーにログをアップロードする機能の削除

NetBackup 8.0 では、FTP サーバーにログをアップロードするための機能が削除されています。この機能は、nbsu、nbcplogs ユーティリティ、ログアシスタントから削除されています。nbsu と nbcplogs サポートユーティリティを使ってログを収集し、手動で Veritas 証拠サーバーにアップロードできます。

ログをアップロードする方法については、Veritas サポート Web サイトの次の記事を参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000097935

ログアシスタントとサポートユーティリティについて詳しい情報を参照できます。『Veritas NetBackup 管理者ガイド Vol. I』と『Veritas NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

nbdeployutil の増分レポート機能

NetBackup 8.0 では、nbdeployutil が増分レポートをサポートします。NetBackup は nbdeployutil をトリガして、指定したスケジュールに応じた実行、データの増分的な収集、過去 90 日分のキャパシティベースのライセンスレポートの生成を行います。

nbdeployutil の増分機能について詳しい情報を参照できます。『Veritas NetBackup 管理者ガイド Vol. II』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

OpsCenter データベースのデフォルトパスワードの変更

OpsCenter 7.7.3 以前のバージョンでは、データベースのデフォルトパスワードは SQL です。OpsCenter 8.0 以降では、データベースのパスワードはインストール後に自動生成された文字列に設定されます。changeDbPassword ユーティリティを使って、自動生成されたパスワードを変更できます。

OpsCenter 8.0 のアップグレード後に、データベースのパスワードが未だにデフォルトの SQL である場合は、自動生成された文字列に設定されます。changeDbPassword ユーティリティを使って、自動生成されたパスワードを変更できます。ただし、以前のバージョンでデフォルトのパスワードを変更した場合、OpsCenter ではそのパスワードが保持されます。

詳しくは、『OpsCenter 管理者ガイド』を参照してください。

OpsCenter インターフェースには HTTPS プロトコルが必要

NetBackup 7.7.3 より、OpsCenter インターフェースには、<http://server:port/opscenter> の代わりに <https://server:port/opscenter> を介してアクセスする必要があります。セキュ

リディ上の理由により、OpsCenter は HTTP プロトコルを介した GUI へのアクセスをサポートしなくなりました。代わりに HTTPS を使う必要があります。

NetBackup 8.0 で有効化される Web サービス

NetBackup 8.0 より、マスターサーバーで Web サービス (Tomcat) が有効になります。これらの Web サービスは、適切に保全するために、システム権限を制限したユーザーアカウントで実行されます。このユーザーアカウントの作成は、マスターサーバーのインストールに必要な前提条件になります。このアカウントの作成手順はドキュメント化され、8.0 のリリースの前に十分余裕を持って利用可能になる予定です。このユーザーアカウントの作成とメンテナンスは、マスターサーバーの展開の一部として計画してください。

Microsoft Azure クラウドのサポート

このリリースより、NetBackup はバックアップターゲットとして Microsoft Azure Storage Services をサポートします。NetBackup は、Microsoft Azure Blob ストレージ (Hot 層および Cold 層) にバックアップデータを書き込み、そこからリストアできるようになりました。

詳しくは、『NetBackup クラウド管理者ガイド』を参照してください。

[NetBackup のリリースノート](#)、[管理者ガイド](#)、[インストールガイド](#)、[トラブルシューティングガイド](#)、[スタートガイド](#)、[ソリューションガイド](#)

NetBackup CloudStore サービスコンテナ (nbcssc) サービスは、クラスタ環境で高可用性を実現

NetBackup 8.0 より、NetBackup CloudStore サービスコンテナ (nbcssc) サービスは、クラスタ環境で高可用性が実現されました。nbcssc サービスの高可用性を実現するには、すべてのアクティブノードで NetBackup をインストールまたはアップグレードした後に追加の実行する必要があります。詳しくは、『Veritas NetBackup マスターサーバーのクラスタ化管理者ガイド』を参照してください。

NetBackup CloudStore Service Container の証明書ベースの認証の使用

NetBackup CloudStore Service Container (nbcssc) は証明書ベースの認証を使います。旧リリースで使われていたこの認証方法 (レガシー認証) はデフォルトにより無効化されます。クラウドストレージサーバーとして構成しているメディアサーバーを NetBackup 8.0 以降にアップグレードすることをお勧めします。サーバーをアップグレードできない場合は、レガシー認証を有効にします。

詳しくは、『NetBackup™ クラウド管理者ガイド』で NetBackup cloudstore.conf 構成ファイルの説明を参照してください。

クラウドストレージ管理

NetBackup 8.0 では、NetBackup 管理コンソールの [Host プロパティ (Host properties)] を使ってカスタムクラウドストレージの追加、変更、または削除ができます。この機能により、サービスホスト、クラウドストレージサーバーのプロパティなどの設定をカスタマイズできます。

クラスタ環境にクラウドストレージ構成のサポートが追加

NetBackup は、クラスタ化されたマスターサーバーのクラウド構成をサポートするようになりました。クラウド環境のクラスタ化されたマスターサーバーは、Windows Server フェールオーバークラスタリング (WSFC) クラスタおよび NetBackup がサポートする Veritas Cluster Server (VCS) の Windows と Linux のすべてのプラットフォームでサポートされます。

クラウドストレージの構成ファイルのために新しいディレクトリが追加

次の場所に cloud という新しいディレクトリが追加されました。

Windows の場合: `NB_INSTALL_PATH\NetBackup\db¥`

UNIX の場合: `/usr/opensv/netbackup/db/`

このディレクトリには、クラウドストレージの構成に関連する NetBackup ファイルが含まれます。

p.21 の「[クラウドストレージ構成ファイルのファイルパスの変更](#)」を参照してください。

クラウドストレージ構成ファイルのファイルパスの変更

次のクラウドストレージ構成ファイルおよび NetBackup に関連付けられている meter ディレクトリのファイルパスが変更されます。

- CloudProvider.xml
- CloudInstance.xml
- cacert.pem
- cloudstore.conf
- libstspimetering.conf
- libstspithrottling.conf
- libstspi<vendor_name>.conf
- libstspi<vendor_name>.pref

新しいファイルパスは次のとおりです。

Windows の場合: `NB_Install_Path¥NetBackup¥db¥cloud`

UNIX の場合: `/usr/openv/netbackup/db/cloud`

マスターサーバーの NetBackup をアップグレードすると、既存のクラウドストレージ構成ファイルおよび meter ディレクトリは新しいファイルパスに移動されます。

メモ: NetBackup をアップグレードする前に meter ディレクトリがデフォルトの場所に見つからない場合は、アップグレード中に新しい場所に移動されません。

SharePoint 2016 Local System アカウントの要件

SharePoint 2016 では、NetBackup Legacy Client Service と NetBackup Legacy Network Service は「Local System アカウント」として実行する必要があります。

Linux 仮想マシンの SYMCquiesce のサポートを今後のリリースで廃止

Linux 仮想マシンの SYMCquiesce ユーティリティのサポートは、NetBackup の次のリリースで廃止されます。新しいオペレーティングシステムでは、同様の機能のネイティブサポートが提供されます。詳細な情報は、オペレーティングシステムベンダーまたは VMware 社にお問い合わせください。

VM バックアップのファイルマッピングの機能強化

仮想マシンのバックアップのファイルマッピング技術の機能が強化されました。NetBackup で 64 ビット版 ext4 ファイルシステムをサポートするようになりました。

VMware の耐障害性 VM のサポート

NetBackup は耐障害性のプライマリ仮想マシンのバックアップとリストアをサポートします。リストア中に VM を上書きする選択を行った場合、NetBackup はリストアプロセス中にプライマリとセカンダリの両方の VM を削除します。次に、NetBackup はプライマリ VM をリストアします。

リストアした VM では耐障害性が有効化されません。リストアが完了した後に、耐障害性を有効にできます。耐障害性を有効にする方法について詳しくは、お使いの vSphere バージョンの VMware マニュアルを参照してください。

Linux での VMware SAN マルチパスのサポート

Linux バックアップホスト上の NetBackup for VMware では、NetBackup は SAN 環境での dynamic multi-pathing をサポートします。必要な VMware ホワイトリストおよびブラックリストの設定について詳しくは、次の URL から入手可能な『NetBackup for VMware 管理者ガイド』のリリース 8.0 を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

NetBackup は Windows および NetBackup アプライアンスでの SAN マルチパスをすでにサポートしています。

個別の VMware 仮想マシンディスクのリストアに関する追加サポート

NetBackup 7.7.3 リリースでは、個別の VMware 仮想マシンディスクの新しい VM へのリストアがサポートされました。このリリースにおいて、NetBackup は次のとおりサポートを追加しました。

- 個別の仮想マシンディスクの既存の VM へのリストアをサポートします。
- 個別の仮想マシンディスクのリストアソリューションを自動化する Perl スクリプトを提供します。

詳しくは、次の URL から入手可能な 8.0 バージョンの『NetBackup for VMware 管理者ガイド』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

VMware Web Client プラグインのタイムゾーンの制限の削除

vSphere Web Client プラグインに対応するために、NetBackup マスターサーバーホストのタイムゾーンを UTC に設定する必要はありません。この設定を行わなくても、vSphere Web Client の NetBackup プラグインは正常に機能します。以前のリリースでは、UTC へのタイムゾーンの設定は必須でした。

NVMe コントローラを備えた VMware VM のバックアップはサポートされない

NetBackup は、NVMe コントローラ上に存在するディスクを備えた仮想マシンのバックアップをサポートしません。

これらのサポートされない仮想マシンをバックアップからフィルタリングして除外できます。この操作を行うには、VMware インテリジェントポリシーの VMHasNVME キーワードを使います。詳しくは、次の URL から入手可能な 8.0 バージョンの『NetBackup for VMware 管理者ガイド』の「VMware インテリジェントポリシーの構成」を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

Windows Server 2016 上の Hyper-V 仮想マシンの高速バックアップ

NetBackup 8.0 では、Windows Server 2016 上で動作する Hyper-V 仮想マシン用の高速バックアップとリカバリの下記の機能が追加されています。これらの機能では、(VSS ではなく) 新しい WMI バックアップ方式が必須です。

- VM の高速バックアップとリカバリを実行するための Microsoft 社の RCT (Resilient Change Tracking) を使うブロックレベルの増分バックアップ。
- 高速バックアップ (完全および増分バックアップ) を実現する Microsoft 社の RCT (Resilient Change Tracking) を使う Accelerator。
- Hyper-V Server 2016 の新しいリソース制限設定と WMI バックアップ方式が使用できます。
- 新しいストレージタイプのサポート: Windows Server Message Block (SMB) 3.0 ファイル共有、Windows Storage Spaces、Storage Spaces Direct。
- WMI バックアップ方式により、Windows Server 2016 上で動作する ReFS ファイルシステムのサポートが追加されています。
- VM 構成バージョンに基づき VM をフィルタリングするポリシークエリービルダーオプション
ConfigurationVersion (スタンドアロンの Hyper-V サーバーとクラスタ用)
VMConfigurationVersion (SCVMM 2016 サーバー用)
- WMI 方式でバックアップした VM をリストアするための強化機能
 - 代替の場所に仮想マシンをリストアする際に、新しい VM GUID がデフォルトで生成されます。オプションとして、元の GUID を保持するように選択できます。
 - 仮想マシンをリストアする際に、新しい仮想マシンの表示名を指定できます。

これらの機能について詳しくは、次の URL から入手可能な 8.0 バージョンの『NetBackup for Hyper-V 管理者ガイド』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

操作上の注意事項

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 8.0 の操作上の注意事項について](#)
- [NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項](#)
- [NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup アクセラレータの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup クラウドの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup クラスタの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup データベースとアプリケーションエージェントの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup 重複排除に関する注意事項](#)
- [NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項](#)
- [NetBackup LiveUpdate の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup for NDMP の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup OpsCenter の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup レプリケーションディレクタの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup Snapshot Client の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup 仮想化の操作上の注意事項](#)

NetBackup 8.0 の操作上の注意事項について

NetBackup の操作上の注意事項は、NetBackup のマニュアルセットまたはベリタスのサポート Web サイトのどこにも文書化されない可能性のある NetBackup のさまざまな操作に関する重要な点について説明したものです。操作上の注意事項は、NetBackup の各バージョンに対応する形で『NetBackup リリースノート』に記載されます。通常、操作上の注意事項には、既知の問題、互換性の問題、およびインストールとアップグレードに関する追加情報が含まれます。

操作上の注意事項は、NetBackup のバージョンがリリースされた後に追加または更新されることがよくあります。この結果、オンラインバージョンの『NetBackup リリースノート』またはその他の NetBackup マニュアルは、リリース後の更新となる場合があります。

NetBackup の指定のリリースに関する最新版のマニュアルセットには、ベリタスのサポート Web サイトの次の場所でアクセスできます。

<http://www.veritas.com/docs/000003214>

p.90 の「NetBackup の関連マニュアルについて」を参照してください。

NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまな方法を使って異機種混合環境でインストールしたり、アップグレードしたりすることができます。NetBackup は、同一環境で混在しているさまざまなリリースレベルの NetBackup サーバーとクライアントとも互換性があります。このトピックでは、NetBackup 8.0 のインストール、アップグレード、ソフトウェアパッケージに関連する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

インストール DVD を挿入すると表示されるメニューからインストールしないでください

インストール DVD をディスクドライブに挿入すると、オペレーティングシステムのユーザーインターフェースウィンドウ (Solaris の [ファイルマネージャ] など) が開く場合があります。このウィンドウを使用して NetBackup 製品をインストールしないことを Veritas が推奨します。このウィンドウを使用すると、予測できない結果が生じる可能性があります。『NetBackup インストールガイド』に記載されているインストール手順に必ず従ってください。

HP-UX Itanium の vPars SRP のコンテナのサポートについて

Hewlett Packard Enterprise (HPE) は、HP-UX Virtual Partitions (vPars) 対応サーバーに Secure Resource Partitions (SRP) という新しいタイプのコンテナを導入しました。SRP で導入されたセキュリティ変更の一部として、swinstall と swremove などのネ

イティブ HP-UX インストールツールの SRP 環境内での実行は無効です。swinstall と swremove ツールは vPars を実行しているグローバルホストからのみ呼び出すことが可能で、SRP コンテナにネイティブパッケージをプッシュインストールします。

NetBackup バージョン 7.6.1 以降、HPE Itanium SRP コンテナ (プライベートファイルシステム、共有ファイルシステムまたは作業負荷) へのインストールを試行すると、インストールが中止します。グローバルコンテナにインストールすると、グローバルビューにのみインストールするためにパラメータがすべての swremove と swinstall コマンドに追加されます。

AIX 7.1 で起きる可能性がある Java エラー

AIX 7.1 で、インストールプログラムに次のメッセージが表示される場合があります。

```
WARNING: Installation of Java LiveUpdate agent failed.  
Refer to file /tmp/JLU-Log/JavaLiveUpdate-Install.log on bmraix57 for more information.
```

このメッセージが表示された場合は、次の **Java** コマンドを実行して、エラー出力を確認してください。

```
# /usr/openv/java/jre/bin/java  
Error: Port Library failed to initialize: -125  
Error: Could not create the Java Virtual Machine.  
Error: A fatal exception has occurred. Program will exit.
```

このエラー出力が生成された場合は、次の **IBM** のサポート記事を参照して問題を解決してください。

<http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg1IV12285>

メモ: 他のエラーが原因で警告メッセージが表示されている可能性があります。**Java** コマンドの出力内容によって、**IBM** の修正プログラムによって問題が解決するかどうかを判断できます。

NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまなプラットフォームに対して、完全かつ柔軟なデータ保護ソリューションを提供します。対象となるプラットフォームには、**Windows**、**UNIX**、**Linux** システムなどが含まれます。データ保護機能の標準セットに加えて、NetBackup は他の複数のライセンス付与されたコンポーネントとライセンス付与されていないコンポーネントを活用して、さまざまな異なるシステムや環境をより強力に保護できます。このトピックでは、NetBackup 8.0 の管理に関連する一般的な操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

2.6 より後のカーネルバージョンで実行している SUSE 11 で起きる問題

ライブ参照とバックアップの問題は 2.6 より後のカーネルバージョンの SUSE 11 オペレーティングシステムで起きる可能性があります。この問題の原因として、NetBackup 8.0 の nbfirescan プロセスが 2.6 より後のカーネルバージョンをサポートしないことが考えられます。

この問題を回避するには、カーネルバージョンを 2.6 に戻してからスナップショットを作成します。

IPv6 アドレスをクライアント名またはイメージ名として使う場合の NetBackup の制限事項

NetBackup の次の 2 つの制限事項は、IPv6 アドレスがクライアント名またはイメージ名として使われている場合に当てはまる場合があります。

- ポリシーでクライアント名として IPv6 アドレスを使っても、Windows システム上のインスタントリカバリ (IR) スナップショットでは機能しません。この場合は、バックアップに失敗する可能性があります。IPv6 アドレスの代わりにホスト名を指定してください。イメージ名は NetBackup で自動的に作成され、クライアント名とタイムスタンプの組み合わせで構成されます。クライアント名がポリシー内で IPv6 アドレスとして構成されていると、IPv6 アドレスが含まれているイメージ名が (イメージカタログに) 生成されます。この場合は、バックアップに失敗します。
- カタログでイメージ名として IPv6 アドレスを使っても、Windows システム上のインスタントリカバリ (IR) スナップショットでは機能しません。

NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項

NetBackup 管理者には、NetBackup の管理に使用できる複数のインターフェースの選択肢があります。すべてのインターフェースには同様の機能があります。このトピックでは、NetBackup 8.0 のこれらのインターフェースに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

個々の NetBackup 管理インターフェースの詳細については、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。インターフェースをインストールする方法については、『NetBackup インストールガイド』を参照してください。管理コンソールとプラットフォームの互換性については、Veritas のサポート Web サイトにある各種の NetBackup 互換性リストを参照してください。

p.87 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

- NetBackup 管理コンソール
- リモート管理コンソール
- デバイス管理用の文字ベースのメニューインターフェイス

- コマンドライン

NetBackup 管理コンソールを実行するためのメモリ要件

最低 1 GB の物理メモリ (256 MB がアプリケーションで利用可能) があるコンピュータで、コンソール (jnbSA、jbpSA またはリモート管理コンソール) を実行することを推奨します。

X フォワーディングを使った NetBackup 管理コンソールの起動が特定の Linux プラットフォーム上で失敗することがある

X フォワーディングを使った NetBackup 管理コンソールの起動は、特定の Linux プラットフォーム、特に VMware 上の Red Hat Enterprise Linux 6.0 (RHEL 6.0) で失敗する場合があります。この問題は、デフォルトの GNU C ライブラリ (glibc) と比較的新しいハードウェアでの Advanced Vector Extensions (AVX) との非互換性に起因しています。この問題は、glibc の今後のリリースで対処されます。

回避策: runInstaller を実行する前に `export LD_BIND_NOW=1` コマンドを実行します。

NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングで断続的に問題が発生する

NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングにおいて、断続的に問題が発生する場合があります。この動作は、X フォワーディングを使用するときのみ発生します。この問題は、ローカルコンソールでは発生しません。問題の多くは Linux サーバーにおいて発生しますが、それに限定されるものではありません。この問題は、一般的には Xming や XBrowser などの古いバージョンの X ビューアが使用されたときに発生します。

MobaXterm を使用すると、問題の発生を最小限に抑える、または問題を解消できるとも考えられます。X フォワーディングで問題が発生した場合には、X ビューアをアップグレードして同じ操作を試みるか、またはローカルコンソールからサーバーにアクセスしてください。

NetBackup の 管理コンソールの初期化時に機能が低下する

次の問題は、ログオン ダイアログで指定されているホスト上の 1 つ以上の NetBackup サービスまたはデーモンが実行されていない場合に発生します。

- 機能の低下 (たとえば、バックアップ、アーカイブ、リストアのコンポーネントのみが利用可能)
- NetBackup 管理コンソールの初期化中に [接続できません (Cannot Connect)] エラーが発生する

Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使うと、NetBackup 管理コンソールのコアダンプの問題が発生する場合がある

Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使うと、NetBackup 管理コンソールのコアダンプの問題が発生する場合があります。詳しくは、Oracle 技術ネットワーク Web サイトで次の URL からバグ ID 6901233 を参照してください。

http://bugs.sun.com/bugdatabase/view_bug.do?bug_id=6901233

この問題が発生した場合は、Oracle が提供する Solaris のパッチまたはアップグレードを適用し、この問題を修復してください。

NetBackup アクセラレータの操作上の注意事項

NetBackup アクセラレータは、完全バックアップを高速化します。高速化は、クライアント上の変更検出技術によって実現しています。クライアントは、この変更検出技術とクライアントの最新のファイルシステムを使って、前回のバックアップ以降発生した変更を特定します。このトピックでは、NetBackup アクセラレータ バージョン 8.0 に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

マスターサーバー、メディアサーバー、クライアントサーバーの Accelerator バージョンの必要条件

NetBackup アクセラレータは、マスターサーバー、メディアサーバーおよびクライアントサーバーが NetBackup 7.5 以上であることを必要とします。NetBackup アプライアンスメディアサーバーはアクセラレータサポートのために NetBackup アプライアンス 2.5 以上を必要とします。

仮想化されたサーバーの Accelerator と Replication Director のサポートは、一緒に設定できない

仮想化されたサーバーに対する NetBackup アクセラレータとレプリケーションディレクトリのサポートは一緒に設定することができません。Block Level Incremental のバックアップ設定は現在組み合わせることができません。

NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項

NetBackup Bare Metal Restore (BMR) では、サーバーのリカバリ処理が自動化され簡素化されるため、オペレーティングシステムの再インストールまたはハードウェアの構成を

手動で実行する必要がなくなります。このトピックでは、NetBackup 8.0 の BMR に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

BTRFS ファイルシステムのサブボリュームおよびそのスナップショットがサポートされない

BMR クライアントでは、BTRFS ファイルシステムのサブボリュームおよびそのスナップショットがサポートされません。

ブートサーバーが Solaris 10 Update 11 の基本インストールを装備している場合、SRT の作成は失敗することがある

ブートサーバーが Solaris 10 Update 11 の基本インストールを装備している場合に、下位の OS の更新を含む Bare Metal Restore (BMR) 共有リソースツリー (SRT) の作成が、カーネルパッチ ID の検査が原因で失敗することがあります。この問題は、Solaris 10 Update 11 に以前の Solaris 10 の更新時の ID より小さい値のカーネルパッチ ID があるために起きます。

回避策: Solaris 10 update 11 BMR ブートサーバーのカーネルパッチを更新します。Oracle Solaris からの提供されたカーネルのバグ修正パッチを適用することによって、カーネルを更新できます。Solaris 10 update 11 のカーネルのバグ修正パッチは、パッチ数を他のパッチより大きい数値に修正することでこの問題を修正しています。

Solaris 11 以降で devfsadmd エラーが発生することがある

Solaris 11 以降で BMR をリストアすると、次のエラーメッセージが表示されることがあります。

```
devfsadmd not responding. /dev may not be correct
```

BMR リストア時に、devfsadmd デーモンに関連するサービスは /dev リンクと /devices リンクを操作するために一時的に停止します。その結果、オペレーティングシステムが devfsadmd デーモンと内部通信しようとするエラーメッセージが生成されます。

これは BMR に関するメッセージではなく、BMR リストアやシステム全体に影響しません。メッセージは無視できます。BMR のリストア後にシステムをブートすると、devfsadmd デーモンが再起動し、メッセージは再度表示されません。

システムブート中や BMR の初回ブート中に Solaris 11 の多くのサービスが警告メッセージを表示する

Solaris 11 以降で初回ブート時に BMR をリストアすると、複数のサービスに関するエラーメッセージが表示されます。

システムブート時と BMR の初回ブート時に、多くのサービス (sendmail など) が次の警告メッセージを出力します。

```
sendmail/filesys_update failed
```

これらのメッセージは、システムにオペレーティングシステムを標準インストールするときにも表示されますが、無視できます。

BMR の初回ブート時にコンソールに表示される他のメッセージは、zpool と Solaris ゾーンの再設定に関連します。これらはすべて無害なメッセージで、システムのリストアや、zpool と zones を正しい状態にするのには影響しません。

これらは、SMF サービスのメッセージです。システムリカバリには影響しません。

BMR のリストア後の初回ブート時に、Solaris 11 以降の Solaris ゾーンリカバリを再構成するまでに時間がかかる

Bare Metal Restore (BMR) リストア操作後の初回ブート時に、BMR は detach-attach コマンドを使ってゾーンを再設定します。多数のゾーンを設定する必要がある場合は、これらのコマンドの実行に時間がかかることがあります。BMR first boot コマンドの完了後に、zpool、zones、ZFS の設定が新しい設定で安定するまでに時間がかかることがあります。

システムが正しい設定状態になるまで、初回ブート後に約 10 分間 (ゾーン数によってはさらに長く) 待機します。完全にリカバリするまでシステムを再起動したり、ゾーンにログインしないでください。

テキストインストーラのパッケージがカスタマイズされた AI ISO 内に存在しない場合、Solaris BMR のリストア操作に失敗する

テキストインストーラパッケージが配布コンストラクタを使って作成されたカスタマイズ済み AI (Automated Installer) ISO 内に存在しない場合は、Solaris Bare Metal Restore (BMR) のリストア操作に失敗します。

共有リソースツリー (SRT) の作成に配布コンストラクタを使って作成されたカスタマイズ済み AI ISO を使う場合は、テキストインストーラパッケージを AI のマニフェストファイルから削除しないでください。

Solaris x86 の場合は、BMR リストアがこのパッケージのファイルを使うのでテキストインストーラパッケージが必須です。

クライアントを仮想マシンに変換にした後、OS の構成に時間がかかる

Windows で Bare Metal Restore (BMR) クライアントから仮想マシンへのバックアップ変換が発生し、変換した VM を初めてブートすると、この問題が起きます。この時間中

に、**Windows** は自動的に新しいハードウェアのための OS の設定を行います。この自動設定のアクティビティにはおよそ 1 分から 4 分かかります。

Windows の設定が完了するまでしばらく待機してから **VM** で OS を再起動してください。このアクティビティはのダイアログまたは **Windows** のステータスペインで確認することができます。

/etc/mke2fs.conf ファイルをリストアすると、アクティビティモニターにリストアタスクが部分的に完了したと表示される

/etc/mke2fs.conf ファイルをリストアすると、[アクティビティモニター (Activity Monitor)] にリストアタスクが部分的に完了したと表示されます。この問題は、クライアントの **Bare Metal Restore (BMR)** リカバリが正常に完了した場合も、**Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6 Update 2** 以降で発生します。この問題は、ファイルがリストアされた後、**BMR** 環境で /etc/mke2fs.conf ファイルのセキュリティプロパティに不適切な設定が含まれることにより発生します。

BMR リストア中に ZFS の一時マウントが失敗する

Bare Metal Restore 中 (**BMR**) のリストア中に、**Zeta** ファイルシステム (**ZFS**) の一時マウントが失敗します。この問題は、バックアップ中にいずれの **ZFS** もマウントされなかった場合や、**canmount** の値が **OFF** に設定された場合に発生します。

ディスクまたはディスクプールを制限するには、**BMR** の構成を編集します。この編集によって、リストアプロセス中にディスクが上書きされたり、そこに含まれているデータが消去されないようにします。

構成の編集方法について詳しくは、『**Bare Metal Restore** 管理者ガイド』の次のセクションを参照してください。

- クライアントおよび構成の管理
- クライアント構成プロパティ

RHEL 6 で BMR リストアを実行すると問題が発生することがある

Bare Metal Restore (BMR) **Linux** のリストアタスクの完了後、**GRUB** メニューの検索時にシステムが「カーネルパニック」を表示することがあります。最初の再起動中、システムが「メンテナンスモード」に入ることもあります。これらの問題は **UDEV** デーモンが動的にデバイスを検出し、再起動中にディスク名とさまざまな構成ファイルの順番に矛盾を引き起こすことで発生します。

この問題が起きた場合は **ベリタス** のサポートに問い合わせ、サポート担当者は **TECH201332** と **TECH179048** の **TechNote** を参照してください。

RHEL システムで基本サーバーインストールを実行している場合、BMR がメディア SRT の作成に失敗する

Red Hat Enterprise Linux (RHEL) システムに Bare Metal Restore (BMR) の基本サーバーインストールを実行すると、メディアの共有リソースツリー (SRT) の作成に失敗します。この問題は、ISO の作成に使われるコマンドを含んでいるパッケージが見つからないために発生します。RHEL クライアントの標準デスクトップインストールでは、この問題は発生しません。

この問題を解決するには、見つからないパッケージを手動でインストールする必要があります。パッケージは `genisoimage-1.1.9-11.el6.x86_64` と類似のファイルです。このファイルをインストールした後、`bmrstadm` コマンドを使ってメディア SRT を作成できます。

BMR リストア後の初回起動中にすべてのファイルシステムのラベルが付け替えられる

BMR リストアの後で最初の起動の間に、システムがすべてのファイルシステムに再びラベルを付けた後、Linux オペレーティングシステムはコンピュータを再起動します。

これは SELinux に関連する、必要なプロセスです。

- ラベルは、セキュリティコンテキストがファイルと関連付けられ、ファイルの拡張属性の一部として保存される方法です。SELinux を無効にしてシステムが起動された場合、これらのラベルが誤って削除されるか、または同期なくなる可能性があります。
- これは通常、初めて SELinux 用にファイルシステムにラベルを付けるときにのみ発生します。BMR のリストアの間に、ファイルシステムが新しく作成されるので、最初の起動の間にファイルシステムに初めてラベルが付けられます。

複数のデバイスに基づく OS 構成では /boot パーティションが独立したパーティション上になければならない

クライアントがマルチデバイスの下でルート (/) として構成されている場合、正常な BMR リストアのためには、/boot パーティションが別のパーティション上にある必要があります。つまり、/ と /boot が同じパーティションにある場合、複数デバイスベースの OS 構成に対してサポートされません。

ZFS ストレージプールを使ったクライアントのリストア後、初回のブート中に、複数のエラーメッセージが表示されることがある

ZFS ストレージプールを持つクライアントのリストア後の初回のブートの間に、複数のエラーメッセージが表示されることがあります。次に例を示します。

```
SUNW-MSG-ID: ZFS-8000-D3, TYPE: Fault, VER: 1, SEVERITY: Major
EVENT-TIME: Mon May 23 13:10:09 CDT 2011
PLATFORM: SUNW,Sun-Fire-V215, CSN: -, HOSTNAME: bmrsl101.vxindia.veritas.com
SOURCE: zfs-diagnosis, REV: 1.0
EVENT-ID: c257eb38-495e-cdb6-9a52-a4d9c2ae38be
DESC: A ZFS device failed. Refer to http://sun.com/msg/ZFS-8000-D3 for more information.
AUTO-RESPONSE: No automated response will occur.
IMPACT: Fault tolerance of the pool may be compromised.
REC-ACTION: Run 'zpool status -x' and replace the bad device.
```

コンピュータの各ディスクで、エラーメッセージが発生することがあります。ただし、ログオンして `zpool status -x` コマンドを実行する、次のメッセージが表示されます。

```
all pools are healthy
```

これは、初回ブートシーケンスの間に行われる **ZFS** インポート操作のためです。**Bare Metal Restore (BMR)** は **BMR** リストア環境内のストレージプールと内容をリストアし、後で初回ブート中にクライアント環境にインポートします。これにより、初回ブート操作の間にエラーメッセージまたは警告メッセージが表示される場合があります。

これらのメッセージは初回ブート操作の間にのみ発生し、安全に無視できます。

BMR が ZFS メタデータをフォーマットまたは消去しないことがある

Dissimilar Disk Restore (DDR) 中に少数のディスクに ZFS ストレージプールを作成するよう選択した場合、**Bare Metal Restore (BMR)** 残りのディスクの ZFS メタデータをフォーマットまたは消去しません。そのため、それらのディスクを使って他のストレージプールを作成しようとする、ディスクが **ZFS** ストレージプールで使用中であることを示すエラーメッセージが表示されることがあります。

この問題を回避するには、`-f` オプションを使ってそれらのディスクに新しいストレージプールを作成します。

BMR でサポートされた 2 つのマルチパスソリューションを共存させると問題が生じることがある

Bare Metal Restore (BMR) がサポートする 2 つのマルチパスソリューション (**EMC PowerPath** と **Linux ネイティブマルチパス**) を 1 つのクライアントに共存させて両方をアクティブに構成すると、問題が発生する可能性があるため、**BMR** ではサポートされていません。

EMC PowerPath 名を使ってマルチデバイスを **SAN** ディスク上に構成し、**SAN** ディスクが **EMC PowerPath** と **Linux Native** マルチパスの両方にあると、**BMR** の問題が起きることがあります。さらに、この構成はサポート外です。ただし、同じマルチデバイスが **Linux**

ネイティブマルチパス名を使って SAN ディスク上に構成されている場合は、BMR で動作します。

ディスクの命名が原因で Citrix XenCenter 仮想化で BMR バックアップに失敗することがある

Bare Metal Restore (BMR) は、hdX、sdX、cxDn などのディスク命名規則のみをサポートできます。

BMR バックアップは、次の理由により Citrix XenCenter 仮想化では失敗する場合があります。

- BMR は、Citrix XenCenter 仮想化で新しく導入された xvdx などのディスク名を認識しません。この問題は、この種類の仮想環境に導入された Xen 準仮想ドライバが原因です。
- SLES11SP1 などの Linux システムがサポートする新しいバージョンの BMR の場合、クライアントコンピュータは hda と sda のディスク命名規則を同時に示します。BMR はこの動作をサポートしていません。
この問題を回避するには、[その他 (Other)] のメディアインストールを使ってください。BMR が Citrix XenCenter 仮想マシンでサポートするテンプレートはこれのみです。また、BMR がサポートしないシステムを使わないでください。たとえば、BMR は Citrix XenCenter 仮想化では SLES11SP1 と RHEL6.1 以降をサポートしません。

SFW がインストールされている Windows 2008 R2 システムによっては、NetBackup システム状態のバックアップに失敗することがある

Storage Foundation for Windows (SFW) 5.1 SP1 がインストールされている Windows Server 2008 R2 システムによっては、NetBackup システム状態のバックアップに失敗することがあります。この問題は、システム予約パーティションにドライブ文字が割り当てられていないシステムで発生しました。この問題は、次の SFW 5.1 SP1 Hotfix で解決されます。

sfw-hotfix_5_1_10064_584_2496270

<https://sort.veritas.com/patch/detail/5438>

この問題は SFW 5.1 SP2 CP7 でも解決されます。

自動イメージレプリケーションおよび BMR を使って保護する場合のクライアントの短縮名の指定

自動イメージレプリケーションおよび Bare Metal Restore (BMR) を使って保護したいコンピュータに NetBackup クライアントパッケージをインストールする場合には、クライアントの短縮名を指定する必要があります。また、プライマリドメインに作成したバックアップポリシーにも、クライアントの短縮名を指定する必要があります。このポリシーはすべてのク

クライアントのローカルドライブをバックアップし、BMR が必要とするクライアント構成を収集します。二次または三次ドメインの DNS は、ディザスタリカバリサイトでのクライアントの BMR リカバリ中に完全修飾名を解決することができません。

クライアントリストアの成功後もリストアタスクがディザスタリカバリドメインに完了状態で保持されることがある

プライマリとディザスタリカバリのドメイン名が異なる Dissimilar Domain Restore を実行すると、リストアタスクはクライアントのリストアの成功後も、ディザスタリカバリドメインに完了状態で保持されます。Bare Metal Restore (BMR) リストアはディザスタリカバリドメインで正常に実行されますが、リストアタスクの更新のみが失敗します。

この更新は、クライアントに無効なネットワーク構成がある場合に失敗します。このリストアはディザスタリカバリドメインの DNS に関連する構成ファイルを変更しないため、これは予期される動作です。

次のネットワーク構成ファイルを手動で変更し、ディザスタリカバリドメイン内のクライアントをバックアップおよびリストアする必要があります。

- Solaris の場合:

- /etc/hosts
- /etc/resolv.conf
- /etc/nodename
- /etc/bge0.hostname

- AIX の場合:

smitty を実行して、ネットワーク構成を変更します。

- HP-UX の場合:

HP のシステム管理ホームページ (SMH) を使って、ネットワーク構成を修正します。

- Linux の場合:

- /etc/hosts
- /etc/resolv.conf
- /etc/sysconfig/network-scripts/ifcfg-eth*

- Windows の場合:

次の URL を参照して、Windows のドメイン名を変更します。

- <http://windows.microsoft.com/en-US/windows7/Connect-your-computer-to-a-domain>
- <http://support.microsoft.com/kb/295017>

BMR の IPv6 サポート

Bare Metal Restore (BMR) は、IPv4 のみのネットワーク、IPv6 のみのネットワーク、または IPv4-IPv6 デュアルスタックネットワークを介して通信できるクライアントを保護します。多くの NW ブートプロトコルは IPv6 チャンネルではサポートされていないため、BMR のリカバリは IPv4 ネットワークでのみサポートされます。さらに、bmrsetupmaster コマンドで BMR データベースを構成するときは、BMR マスターサーバー IPv4 アドレスを有効にして、マスターサーバーのホスト名で解決できるようにする必要があります。bmrsetupmaster が正常に実行された後は、IPv6 アドレスを使う場合にのみ IPv4 アドレスを停止できます。

BMR のリストアの間、マスターサーバーとメディアサーバーは有効になっている IPv4 アドレスを必要とします。

例

bmrsetupmaster は、BMR マスターの IPv4 アドレスを解決する際、BMR データベースへのレコード作成中に失敗することがあります。BMR データベースの作成に失敗するため、BMR マスターは機能しません。

この問題を解決するには、bmrsetupmaster コマンドを実行する前に、マスターサーバーの IPv4 ベースの IP が有効になっていて、NetBackup マスターサーバーの名前で解決できることを確認してください。

BMR のバックアップは IPv6 ネットワークチャンネルでサポートされますが、BMR のリストアは IPv4 チャンネルでのみ正常に実行されることに注意してください。

VxFS7 ベースのファイルの作成中にエラーが発生することがある

Bare Metal Restore (BMR) のリストア中に、VxFS7 ベースのファイルの作成プロセスでエラーが発生する場合があります。この問題を回避するには、bmrstadm を使ってバージョン 5.0 の VxFS バージョンにパッチを適用し、SRT を編集します。リストアを再実行し、クライアントのリストアを開始します。

リストア後に HP-UX の自動ブートに失敗することがある

Bare Metal Restore (BMR) のリストア後、クライアントコンピュータの初回のブート時にオペレーティングシステムの自動ブートに失敗する場合があります。その後 HP BIOS はブートドライブを識別できなくなります。

この問題を解決するには、[HP BIOS]>[EFI]シェルを使い、デバイスマッピングテーブルを確認してブートに使うことができるハードディスクドライブ (fs0: など) を選択します。

オペレーティングシステムを手動でブートするために、ディレクトリを ¥EFI¥HPUX¥ に変更して (cd)、HP-UX を実行します。

メモ: EFI シェルを処理する方法については、HP EFI のマニュアルを参照してください。

クライアントコンピュータが起動したら、コンピュータに `root` としてログオンし、次のコマンドを実行して自動ブートを有効にします。

```
setboot -p <hardware_path_of_boot_hardware>
```

Solaris クライアントのリストア準備が機能しないことがある

Bare Metal Restore (BMR) ブートサーバーがクライアントコンピュータの IPv4 アドレスの解決に失敗したため、Solaris クライアントコンピュータの BMR のリストア準備が正常に実行されない場合があります。

この問題を回避するには、次を実行します。

- IPv4 アドレスとして、`client_host_name` マッピングエントリが `/etc/hosts` に最初に存在し、その後 `IPv6` マッピングエントリがあることを確認してください。
Solaris BMR ブートサーバーでは、`/etc/hosts` ディレクトリに最初に `IPv6` アドレス `client_host_name` エントリが含まれていると、BMR ブートサーバーはクライアント `IPv4` アドレスの識別に失敗します。
- [リストア準備 (Prepare To Restore)] を再度実行します。

NetBackup クラウドの操作上の注意事項

NetBackup Cloud Storage では、クラウドの STaaS (Storage as a Service) ベンダーからデータをバックアップ、リストアできます。NetBackup Cloud Storage は Veritas OpenStorage と統合されています。この項では、NetBackup 8.0 の NetBackup クラウドに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

カタログのバックアップ先をクラウドストレージにした場合にカタログリカバリに失敗する

ディザスタリカバリサイトで、バックアップ先がクラウドストレージのカタログから NetBackup 8.0 マスターサーバーをリカバリしようとする、カタログリカバリが次のエラーで失敗します。

- ウィザードで、完全なバックアップからカタログをリストアすると、次のエラーで失敗します。
ウィザードの [リカバリカタログ] パネルで NBDB のリカバリに失敗しました。
- ウィザードで、カタログの増分バックアップからリストアすると、次のエラーで失敗します。

コマンド `C:\Program Files\Veritas\NetBackup\bin\bprestore.exe` の実行に失敗しました。

回避策については、次の TechNote の説明を参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000116686

バックアップ先のメディアホストが NetBackup 7.7.3 以前の場合は、次の TechNote の説明を参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000116687

NetBackup Cloud がサポートしないプラットフォームにマスターサーバーをインストールしている場合は、次の TechNote の説明を参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000116688

IPv6 対応の Windows Server 2008 R2 が実行されているホストで Rackspace プラグインが使われている場合、ネットワーク接続問題が発生することがある

Rackspace のプラグインが IPv6 対応の Windows Server 2008 R2 を実行するホストで使われているとき、NetBackup にネットワーク接続の問題が発生する場合があります。Rackspace のプラグインを使う Windows Server 2008 R2 のホストでは IPv6 を無効にすることをベリタスが推奨します。

NetBackup クラスタの操作上の注意事項

クラスタはアプリケーションおよびデータの高可用性を実現します。クラスタでは、2 台以上のサーバー（ノード）がネットワークでリンクされます。これらのサーバーではクラスタソフトウェアが実行され、共有ディスクに各ノードがアクセスできます。この項では、NetBackup 8.0 のクラスタ技術に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

クラスタ化された環境では、仮想名を IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方に解決することはできない

環境がクラスタ化されている場合、クラスタ環境では、単に 1 つのアドレスである仮想名を使って高可用性リソースが定義されます。そのアドレスは、可用性の高い IPv4 アドレスまたは可用性の高い IPv6 アドレスにできます。解決するとその両方になる仮想名を設定することはできません。

NetBackup クラスタのインストールに関する注意事項

仮想名を使ってサーバーにログオンする

NetBackup 管理コンソールを起動するときには、NetBackup と関連付けられた仮想名を使ってサーバーにログオンする必要があります。

Solaris 以外の UNIX クラスタでのインストールまたはアップグレード後に、リソースのオフラインタイムアウトを増やす

Solaris クラスタ以外の UNIX クラスタで NetBackup をインストールまたはアップグレードしたら、NetBackup リソースのオフラインタイムアウトを少なくとも 600 秒に増やしてください。

クラスタ化されたサーバーを 8.0 にアップグレードする場合の通常のエラーメッセージ

クラスタ化された NetBackup サーバーをバージョン 8.0 にアップグレードすると、Sybase サービス (SQLANY) を開始できなかったことを示す Windows のイベントログメッセージが表示されることがあります。これらのメッセージは短時間で生成されます (通常は 2、3 秒でウィンドウが 1 つ)。これらのメッセージは、アップグレードのクラスタ構成部分と一致します。これらのメッセージを想定しておき、それらがアップグレードの問題を反映しないことを把握しておく必要があります。

Solaris クラスタの NetBackup リソースグループのチューニングパラメータ

Solaris クラスタで NetBackup をインストールまたはアップグレードする場合は、正常にフェールオーバーされるように、NetBackup リソースグループのチューニングパラメータを次のように変更します。

- STOP_TIMEOUT パラメータを、デフォルトの 300 秒から 600 秒以上に増やします。
- pmf Retry_count パラメータを 0 に設定します。

これらの変更を実行するには、次のコマンドを使います。

- # scrgadm -c -j scnb-hars -y Retry_count=0
- # scrgadm -c -j scnb-hars -y STOP_TIMEOUT=600
- # scswitch -n -j scnb-hars
- # scswitch -e -j scnb-hars

メモ: これらのコマンドを実行すると、NetBackup がシャットダウンして再起動します。

NetBackup データベースとアプリケーションエージェントの操作上の注意事項

NetBackup には、Oracle、Microsoft SQL Server、Microsoft Exchange Server といったさまざまなデータベースやアプリケーション技術を保護するためのいくつかの方法が用意されています。このトピックでは、NetBackup 8.0 のデータベース技術の保護に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NetBackup for DB2 の操作上の注意事項

NetBackup for DB2 は、DB2 のデータベースのバックアップおよびリカバリ機能と NetBackup のバックアップおよびリカバリ管理機能を統合します。このトピックでは、NetBackup 8.0 の NetBackup for DB2 に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NetBackup for Exchange の操作上の注意事項

NetBackup for Exchange Server では NetBackup の機能が拡張され、Exchange データベースのオンラインのバックアップとリストアが追加されました。このトピックでは、NetBackup 8.0 の NetBackup for Exchange に関連する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

DAG のノードからリストアを開始した場合に DAG バックアップの状態が空になることがある

データベース可用性グループ (DAG) バックアップのデータベースや個別項目をリストアする場合は、バックアップ、アーカイブ、リストア (BAR) インターフェースでリストアの状態が空になることがあります。DAG のノードからリストアを開始した場合、状態は空になります。アクティビティの状態を適切に表示するには、アクティブ DAG ノードまたは NetBackup サーバーからリストアを開始してください。

DAG 環境でのユーザー主導バックアップを現在アクティブになっていない DAG のノードから開始すると失敗する

データベース可用性グループ (DAG) 環境で仮想 DAG 名が現在アクティブではない DAG のノードからユーザー主導バックアップを開始すると失敗します。

回避策: アクティブ DAG ノードからユーザーバックアップを開始するか、または NetBackup マスターからバックアップを手動で開始して適切にバックアップを始めます。

NetBackup の操作上の注意事項

NetBackup for SharePoint Server は、NetBackup の機能を拡張して、SharePoint データベースのオンラインバックアップとリストアを実行可能にしています。この項では、NetBackup 8.0 の NetBackup for SharePoint に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

個別リストアで、チェックアウトされたバージョン付きの文書またはファイルがスキップされる

次の既知の問題は、バージョン管理機能が有効で、バックアップの時点にチェックアウトされている文書またはファイルのリストアに関連して発生します。

- **SharePoint 2010** の個別リストアでは、そのような文書またはファイルのリストアがスキップされます。リストアは、「この Web サイトへの追加は遮断されました (Additions to this website have been blocked)」というエラーで失敗します。
- **SharePoint 2016** では、リストア後にバージョンが追加されます。親リストに失敗する可能性がある検証式を含む列がある場合、リストアジョブは失敗することがありますが、ファイルのコンテンツおよびその他の有効なメタデータはリストアされます。"checked-out" タグも項目から削除されます。

この問題を回避するには、リストアターゲットとしてリストを選択します。これにより、チェックアウトされた項目およびそのバージョンをリストアできます。ただし、この場合、"checked-out" タグが項目から削除されることに注意してください。詳しくは、『NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』を参照してください。

サイトコレクションのリストア時に、修正したシステムファイルや非実体化ファイルがカタログ登録またはリストアされない

サイトコレクションのリストア時には、修正済みシステムファイルや修正済み非実体化ファイルはカタログ登録もリストアもされません。この問題は、SharePoint 2013/2016 で確認されています。

この問題を回避するには、SharePoint Web アプリケーションコンテンツデータベースをリストアします。詳しくは、『NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』を参照してください。

リストアされた wiki ページが正しくない可能性があります

wiki サイトのページをリストアするのに GRT (Granular Recovery Technology) を使うと、リストアされた内容が正しくない場合があります。

この問題を回避するには、SharePoint Web アプリケーションコンテンツデータベースをリストアします。詳しくは、『NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』を参照してください。

個別リカバリテクノロジー (GRT) を使って SharePoint 2016 のテンプレートから非実体化または未カスタマイズの ASPX ページをリストアすると、リストアジョブは成功しますが、リストアされたページは作成時のデフォルトコンテンツで表示されます。ASPX ページを SharePoint にアップロードする場合、この問題は発生しません。そのようなページは、カスタマイズ済みページとして扱われます。

この問題を回避するには、SharePoint Web アプリケーションコンテンツデータベースをリストアします。『NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』の「SharePoint サーバー Web アプリケーションコンテンツデータベースの代替 SQL インスタンスへのリストアのリダイレクト」を参照してください。

NetBackup 重複排除に関する注意事項

NetBackup は、必要なぎりデータソースに近い任意の場所でデータを重複排除できるいくつかの重複排除オプションを提供します。任意の場所での重複排除では、バックアップ処理のどの時点で重複排除を実行するかを選択できます。NetBackup は、NetBackup 重複排除エンジンを使用する環境の重複排除を管理できます。この項では、NetBackup 8.0 の NetBackup 重複排除エンジンに関する注意事項および既知の問題について説明します。

MSDP の互換性に関する最新情報については、次の場所で『NetBackup Enterprise Server and Server OS Software Compatibility List』を参照してください。

<http://www.netbackup.com/compatibility>

NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項

このトピックでは、NetBackup 8.0 の国際化、日本語化、および英語以外のロケールに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

データベースエージェントとアプリケーションエージェントでは、サポート対象のすべてのプラットフォームについて、ローカライズされた環境のサポートが制限される

データベースとアプリケーションエージェントでは、すべてのサポート対象プラットフォームのローカライズされた環境のサポートが制限されています。

これらのどのエージェントを使用する場合も、次のような名前には非 US ASCII 文字を使用できません。

- あらゆるデータベースオブジェクト名。たとえば、データベース、テーブル領域、ファイルグループ、データファイル、ポータルなど。

- データベースファイル、ディレクトリ、トランザクションログ、または他のデータベースストレージの場所のあらゆるパス名。
- ポリシーバックアップ選択項目で指定されたあらゆるパス名。たとえば、通知スクリプト、テンプレート、またはバッチファイルなど。

英語版と同じバージョンレベルではない言語パックを実行しない

英語版とレベルが異なる言語パックの実行はベリタスが推奨しません。たとえば、英語版の NetBackup 7.7 では NetBackup 7.6 の言語パックを実行しないでください。インストール済みの言語パックがある場合には、英語版をアップグレードする前に削除するようにしてください。

NetBackup LiveUpdate の操作上の注意事項

NetBackup LiveUpdate は、ポリシーに基づいたクロスプラットフォーム方式を提供して、バージョン 6.5 以降の NetBackup ホストに NetBackup リリース更新とホットフィックスのダウンロードを配布します。NetBackup 7.1 以降では、NetBackup LiveUpdate は NetBackup クライアントのメジャーリリースとマイナーリリースへのアップグレードもサポートします。この項では、NetBackup 8.0 の LiveUpdate に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

LiveUpdate を使って NetBackup 8.0 のインストールまたはこのバージョンへのアップグレードを試みると、対象ホストに互換性のないバージョンの Java JRE がインストールされていることが原因で失敗することがある

LiveUpdate を使って NetBackup 8.0 をインストールまたは NetBackup 8.0 にアップグレードしようとする、対象ホストに互換性がないバージョンの Java JRE をインストールしていることが原因で失敗する可能性があります。

Java LiveUpdate (JLU) エージェントは Java JRE の最小バージョンがインストールされていることを必要とします。ほとんどの UNIX プラットフォームで、NetBackup はこの最小必要条件以上の Java JRE バージョンを配信します。ただし、Java はいくつかの特定の UNIX プラットフォーム用 NetBackup インストールパッケージに含まれなくなりました。これらのパッケージのいずれかで NetBackup をアップグレードすると、以前に NetBackup がインストールした Java バージョンが削除されます。

プッシュインストールとサイレントインストール方式では、パッケージの一部として LiveUpdate エージェントがインストールされない

プッシュインストールとサイレントインストール方式では、パッケージの一部として LiveUpdate エージェントをインストールしません。LiveUpdate エージェントをインストー

ルする場合は、ローカルホストに **LiveUpdate** のバイナリをコピーして **LiveUpdate** エージェントを手動でインストールすることを **Veritas** が推奨します。**LiveUpdate** のバイナリは次の場所から入手できます。

```
¥¥<dvd_root>¥Addons¥<platform>¥LiveUpdate
```

LiveUpdate のインストール方法について詳しくは、『**NetBackup LiveUpdate ガイド**』を参照してください。

メモ: この問題が多数のコンピュータに影響する場合、**LiveUpdate** エージェントをインストールするために **Altiris** などのサードパーティのアプリケーションを使うことができます。

LiveUpdate を使って HP PA-RISC クライアントを NetBackup 7.6 にアップグレードするときのエラー

NetBackup LiveUpdate を使って HP PA-RISC クライアントを **NetBackup 7.6** にアップグレードするときに、このクライアントを次のように設定しているとエラーが起きる可能性があります。

- `/dev/random` ディレクトリおよび `/dev/urandom` ディレクトリが存在している。
- デフォルトシステム **Java** の **JDK/JRE** レベルが、バージョン **1.6.0** から **1.6.0.16** まです。

JDK/JRE の現在のバージョンレベルを確認するには、次のコマンドを実行します。

```
java -version
```

LiveUpdate を使って HP PA-RISC クライアントを **NetBackup 7.6** にアップグレードしたい場合には、2 つある次のオプションのどちらかを実行すると、この問題を回避できます。

- オプション 1:
デフォルトシステム **Java** のセキュリティファイル (たとえば、`/opt/java6/jre/lib/security/java.security`) で、次のように変更を行います。

```
securerandom.source=file:/dev/urandom
```

目的:

```
securerandom.source=file:/dev/random
```

- オプション 2:
デフォルトシステム **Java** の **JDK/JRE** レベルを、バージョン **1.6.0.16** 以降にアップグレードします。

この問題が発生した場合には、次のエラーテキストが

`/opt/Symantec/LiveUpdate/liveupdt.log` ファイルに記録される場合があります。

```
<date> <time> Attempt to load guard and signature files failed  
because initialization of the security libraries failed
```

```
<date> <time>  
<date> <time> The Java LiveUpdate session did not complete  
successfully.  
<date> <time> Return code = 233
```

/usr/opensv/java/jre/bin/java がデフォルトシステムの Java バイナリへのシンボリックリンクになっていることを確認する必要があります。前に挙げた 2 つのオプションのいずれかを実行するか、または失敗した NetBackup LiveUpdate ジョブを再実行します。

NetBackup for NDMP の操作上の注意事項

NetBackup for NDMP は、NetBackup のオプション製品です。Network Data Management Protocol (NDMP) を使用して、NetBackup で Network Attached Storage (NAS) システムのバックアップおよびリストアを開始および制御できます。このトピックでは、NetBackup 8.0 の NetBackup for NDMP に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NDMP 多重化 (MPX) リストアが過度のログメッセージを生成したことが原因で、アクティビティモニターがハングアップすることがある

NetBackup NDMP 多重化 (MPX) リストアが、bptm ログに多すぎる数のメッセージを生成したことが原因で、bptm プログラムやアクティビティモニターがハングアップすることがあります。この問題は NON_MPX_RESTORE touch ファイルが NetBackup マスターサーバーに存在する場合に起きます。この問題は、UNIX と Windows 両方のプラットフォームの NDMP MPX リストアにのみ該当します。

この問題の回避策は、Veritas のサポート Web サイトにある次の TechNote を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000018280>

ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないことがある

NetBackup のネットワークデータ管理プロトコル (NDMP) バックアップポリシーをバックアップ選択項目の set type=tar 指示句で設定している場合に、問題が起きることがあります。増分 NDMP バックアップが保存するファイルのパスの親ディレクトリはバックアップイメージに存在しない場合があります。この問題について詳しくは、ベリタス社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000095049>

NetBackup OpsCenter の操作上の注意事項

NetBackup OpsCenter は Web ベースのソフトウェアアプリケーションで、これを使用すると組織のデータ保護環境での表示が可能になります。NetBackup OpsCenter を使用すると、包括的なレポートを生成し、バックアップ操作の効果を追跡できます。このトピックでは、NetBackup 8.0 の OpsCenter に関連する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

メモ: OpsCenter は NetBackup Operations Manager (NOM) と Veritas Backup Reporter (VBR) を 1 つにまとめたもので、Veritas NetBackup OpsCenter と Veritas NetBackup OpsCenter の 2 つのバージョンで利用可能です。NetBackup 7.0 以降、NOM は OpsCenter に置き換えられています。現在の NetBackup 環境に NOM または VBR が含まれている場合は、OpsCenter の新しいバージョンにアップグレードする前に、まず OpsCenter 7.0 または 7.1 にアップグレードする必要があります。

OpsCenter のアップグレードについて詳しくは、『NetBackup OpsCenter 管理者ガイド』を参照してください。

デフォルト以外の場所にあるデータベースをリストアするときにリストアディレクトリを指定すると OpsCenter Web ユーザーインターフェースのログインが失敗する

次のシナリオを検討します。

デフォルト以外の場所にある OpsCenter データベースをリストアすると想定します。データベースをリストアするには、dbbackup コマンドを使うことができます。コマンドラインオプションとしてリストアディレクトリを指定すると、データベースファイルとともに db.conf ファイルもデフォルト以外の場所にリストアされる場合があります。この状況は、OpsCenter ログインの失敗の原因となる場合があります。

この問題を防ぐには、リストアディレクトリを指定せずに dbbackup コマンドを実行して、データベースをリストアします。

```
INSTALL_PATH/SYMCOpsCenterServer/bin/dbbackup.sh backupDir -restore
```

リストアされるデータベースファイルは想定どおりの、デフォルト以外の場所に保存されます。

データベースをリストアするときにリストアディレクトリ (たとえば、`restoredir1`) を指定した場合に、OpsCenter ログインの問題が発生する場合は、次の手順を実行して問題を解決します。

- 1 今後の参照の目的で、`INSTALL_PATH/SYMCopsCenterServer/config` にある既存の `db.conf` ファイルをバックアップします。
- 2 `INSTALL_PATH/SYMCopsCenterServer/config` にある `db.conf` ファイルを、リストアディレクトリ (たとえば `restoredir1`) にリストアされたファイルと置換します。
- 3 OpsCenter サービスを再起動します。

ベリタスのロゴが付いている新しい UI を表示するための Web ブラウザのキャッシュを消去する

OpsCenter 8.0 にアップグレードした後に、ベリタスのロゴが付いた古いユーザーインターフェースが表示される場合があります。ベリタスのロゴが付いている新しいユーザーインターフェースを表示するには、Web ブラウザのキャッシュを消去する必要があります。

database.conf がデフォルト以外のインストール場所で上書きされる

NetBackup OpsCenter 7.6 または 7.6.1 にアップグレードするときにデフォルト以外の場所にインストールしたい場合は、バックアップディレクトリとは異なるインストールディレクトリを選択します。両方のディレクトリが同じであると `database.conf` (バックアップファイル) が上書きされ、OpsCenter サービスを開始しません。

alert.conf の水準点の別のしきい値を設定できない

`alert.conf` ファイルの水準点のしきい値はグローバル設定で、ディスク空きなしのアラートポリシーで選択されたすべての NetBackup マスターサーバーのすべてのディスクプールに適用されます。異なるマスターサーバーまたは異なるアラートポリシーに異なるしきい値を設定できません。

詳しくは、次の記事を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000075229>

メモ: ディスクプールの空き領域なしアラートポリシーを設定するとき個々のディスクプールを選択すると、アラートは生成されません。個々のディスクプールではなくマスターサーバーを選択する必要があります。

Web ブラウザによって決定されたレポートのエクスポート先の場所

[設定 (Settings)] > [構成 (Configuration)] > [レポートのエクスポート先 (Report Export Location)]を選択することで、スケジュールされたレポートの保存場所が決まります。た

だし、OpsCenter コンソールの[レポートのエクスポート (Export Report)]を選択する場合、Web ブラウザ設定によりエクスポートの場所が決まります。例: [Firefox] > [オプション] > [一般] > [次のフォルダに保存する]で指定された場所により、スケジュールされていないレポートの保存場所が決まります。

アンパサンドが原因で編集できない

アンパサンド (&) を含んでいる OpsCenter のユーザー名は、バージョン 7.6 へのアップグレード後に編集できません。アップグレード後にパスワードのリセット、ユーザーロールの有効化、無効化、変更などのユーザー編集を実行すると、失敗する場合があります。バージョン 7.6 の新規インストールの場合、ユーザーパスワードのリセットのみが禁止されます。いずれの場合も、次のメッセージが表示されて編集が失敗します。

```
Error performing User action.
```

パスワードのリセット操作の間、ユーザー名はアンパサンドの前の文字のみが表示されます。

Korn シェルがインストールされていないと UNIX システム上の OpsCenter にログインできない

UNIX システムへの OpsCenter 7.6 のインストールまたはアップグレードでは、OpsCenter 7.6 サーバーをインストールまたはアップグレードするホスト上に Korn シェル (ksh) がインストールされていることを確認してください。

警告: インストールまたはアップグレードの前に ksh がインストールされなかった場合には、OpsCenter Web インターフェースにログオンできない場合があります。

サーバーに到達できないことが原因でクラウドの計測データの収集が失敗する

クラウドクレデンシャルが確立された 1 つ以上のメディアサーバーが、何らかの理由によりクラウドストレージサーバー (データムーバー) にできない場合は、クラウド測定データの収集が失敗する可能性があります。

回避策: 到達不能なメディアサーバーから tpconfig を使用して、マスター上のすべてのクラウドのストレージサーバーから、そのメディアのクレデンシャルを削除します。クラウド測定データの収集が正常に動作します。収集に失敗したメディアサーバーのクラウド測定データもすべて収集できる状態になります。

View Builder でオブジェクトがアタッチされたノードを移動するときそのノードが一時的に表示されなくなる

OpsCenter Analytics View Builder で、ノードを移動するときそのノードに割り当てられたオブジェクトが存在する場合は、移動操作の後にそのオブジェクトが表示されなくなる場合があります。この場合、オブジェクトは一時的に表示されなくなりますが、一定時間が経過すると表示されます。

この問題を回避するために、しばらく待機した後に View Builder に再度ログインして表示を更新することを推奨します。

メモ: オブジェクトはビュービルダーで再表示されるまでに数時間または 2、3 日かかることがあります。

ストレージユニットパスが 256 文字を超えるとデータ収集が失敗する

NetBackup OpsCenter 7.6 以前のリリースでは、指定したベーシックディスクストレージユニット (STU) のパスが 256 文字を超えると、OpsCenter によるデータ収集が失敗します。問題を回避するためには、256 文字以下のストレージユニットパスを作成する必要があります。

[アクセラレータジョブのみ含める (Include Accelerator Job Only)] が選択されているとレポートが空になる

バージョン 7.5 または 7.5.0.x の NetBackup マスターサーバーに、[アクセラレータジョブのみを含める (Include Accelerator Job Only)] フィルタが適用された場合に、特定のレポートではデータがまったく表示されません。これらのレポートでは、アクセラレータデータに関連する列を含む表形式のバックアップレポートまたはカスタムレポートが使われています。NetBackup Accelerator のサポートが有効なのは NetBackup OpsCenter 7.6 であるため、レポートにデータが表示されません。

この問題を回避するため、NetBackup 7.5 または NetBackup 7.5.0.x を実行しているマスターサーバーのレポートについては、NetBackup OpsCenter 7.6 では、[アクセラレータジョブのみを含める (Include Accelerator Job Only)] フィルタを適用しないでください。

参照機能は IE8 でサポートされない

Operational Restore の参照機能は、Internet Explorer 8 の一部の製品バリエーションでは使用できません。Operational Restore の参照機能を使う場合には、Internet Explorer 9 以降または Firefox を推奨します。

クライアントの参照と選択機能で、NetApp ボリュームが Replication Director VM バックアップのクライアント名として表示される

OpsCenter のリストアで、クライアントの参照と選択 機能を実行すると、Replication Director VM バックアップのクライアント名として NetApp ボリュームが表示されます。この選択ではファイルが表示されません。ファイルおよびディレクトリを参照したり、リストア操作を実行するには、実際の VM クライアント名を選択する必要があります。

添付ファイルのサイズが大きすぎるとレポートの電子メールが配信されない

レポートが一括モードでスケジュールされているときに、レポートの電子メールを受信できない場合があります。

レポートの電子メールの添付ファイルのサイズが SMTP サーバーの限度を超過した場合は、レポートの電子メールを受信できません。

新しいユーザーがログオンするまでそれらのユーザーにアラートを割り当てることができない

OpsCenter 7.6 では、新たに追加された OpsCenter ユーザーにアラートを割り当てることができません。[割り当て先 (Assigned To)]列の[監視 (Monitor)]>[アラート (Alerts)]ページに、新しいユーザーが表示されません。新しいユーザーが[割り当て先 (Assigned To)]列に表示されるようにするには、最初に OpsCenter にログオンする必要があります。ユーザーが列に表示されれば、そのユーザーにアラートを割り当てることができます。

[ユーザープロファイルのコピー (Copy User Profile)]に新しいユーザーが表示されない

[ユーザープロファイルのコピー (Copy User Profile)]ドロップダウンリストに、新しく作成されたユーザーが表示されません。

この問題を回避するには、新しく作成されたユーザー名で OpsCenter にログインし、ログアウトする必要があります。少なくとも 1 度ログオンすることによって、新しいユーザー名が[ユーザープロファイルのコピー (Copy User Profile)]に登録されます。[ユーザープロファイルのコピー (Copy User Profile)]ドロップダウンリストにもユーザー名が表示されるようになります。

サーバーパスワードに HTML 文字が含まれていると Backup Exec のデータ収集が失敗する

Backup Exec サーバーのパスワードに、&、<、>、または / などの HTML 文字が含まれている場合に、OpsCenter の Backup Exec データコレクタに対して編集を行うと、データ収集が失敗します。

問題を解決するためには、次のいずれかの回避策を使用できます。

- Backup Exec サーバーのパスワードを HTML 文字を使用しないパスワードに変更します。
- Backup Exec のデータコレクタの既存のエントリを削除し、新しいエントリを追加します。

OpsCenter Monitor の [ファイルリスト (File List)] タブに実行中のジョブが表示されない

OpsCenter Monitor でジョブを表示すると、実行中のジョブが [ファイルリスト (File List)] タブに表示されません。

OpsCenter 7.5 以降では、ジョブが処理中のときには、[ファイルリスト (File List)] タブには表示されません。[ファイルリスト (File List)] タブには、正常に完了したジョブだけが読み込まれます。

サブグループ名に特殊文字が含まれているとユーザーが認可されない

特殊文字が含まれたサブグループに属するユーザーが認可されません。

サブグループの名前に特殊文字がある場合は、親またはグループチェーンの名前が返されず、認可に失敗します。親またはグループチェーンの名前は、親のいずれかが OpsCenter ユーザーであるかどうかを判断するために必要です。そのため、「PD_#QE%」などの特殊文字を含むサブグループに属するユーザーは認可されません。

サードパーティユーティリティを実行した後に、JAVA_HOME 変数または JRE_HOME 変数が未定義になる

OpsCenter をインストールした後、Tomcat の version.sh などのサードパーティユーティリティを実行すると、次のエラーメッセージが表示されます。

'Neither the JAVA_HOME nor the JRE_HOME environment variable is defined'

この問題が発生した場合は、次の回避策を使用します。

- Windows の場合: OpsCenter のインストール後に、最初に setEnv.bat コマンドを実行し、次にサードパーティユーティリティを実行する必要があります。
setEnv.bat のパスは INSTALL_PATH\OpsCenter\server\bin です。

- UNIX の場合: OpsCenter のインストール後に、最初に `setEnv.sh` コマンドを実行し、次にサードパーティユーティリティを実行する必要があります。
`setEnv.sh` のパスは `<INSTALL_PATH>/SYMCOpsCenterServer/bin` です。

メモ: `version.sh/bat` ファイルは Tomcat のスクリプトですので、修正しないでください。Tomcat および JRE のバージョンを確認するには、`setEnv.sh/bat` ファイルを実行し、次に `version.sh/bat` ファイルを実行する必要があります。

[監視 (Monitor)] インターフェースと[ビュー (Views)] インターフェースのエントリが重複する

特定の場合、クライアントの重複エントリが[監視 (Monitor)]および[ビュー (Views)]インターフェースに表示されます。

この問題は次のいずれかの場合で見られます。

- NetBackup のマスターサーバーが、1 つ以上のポリシーでクライアントとして使われている。
- NetBackup マスターサーバーを完全修飾ドメイン名 (FQDN) で参照する NetBackup ポリシーがある一方で、短縮名で参照するポリシーもあります。
- マスターサーバーの実際の名前と OpsCenter で使われるネットワーク名または表示名が一致しない。

次に、この問題の例を示します。

NetBackup マスターサーバーの実際の名前は `abc.xyz.com` です。OpsCenter で使われるネットワーク名または表示名は `xyz` です。

この場合には、`abc.xyz.com` が 1 つ以上の NetBackup ポリシーのクライアントとして使われていると、このクライアントの重複エントリが次の OpsCenter 画面に表示されます。

- [監視 (Monitor)] > [ホスト (Host)] > [クライアント (Client)]
- [設定 (Settings)] > [ビュー (Views)] > [ノードおよびオブジェクトの管理 (Manage Nodes and Objects)] > [選択したビューに存在しないオブジェクト (Objects not in selected view)]

ポート 1556 が双方向に開かれていないと、マスターサーバー上でジョブ収集が失敗する

マスターサーバーからの OpsCenter のジョブ収集は、ポート 1556 が NetBackup と OpsCenter の両側で双方向に開かれていないと失敗する可能性があります。

キャパシティライセンスレポートの実行

NetBackup 8.0 でキャパシティライセンスレポートを実行するには、各マスターサーバーに対してユーザー名とパスワードが必要となります。7.5.0.5 より前のバージョンの OpsCenter に追加されたすべてのマスターサーバーのレポートを正常に実行するには、さらに他の手順が必要になります。各マスターサーバーのユーザー名とパスワード資格情報は NetBackup の構成設定で手動で入力する必要があります。クレデンシャルが構成設定に追加されない場合、レポートの実行時にユーザー名およびパスワードエラーが戻ります。

さらに、キャパシティライセンスを正しく動作させるために、次の TechNote を参照し、指定された EEB をインストールします。

<http://www.veritas.com/docs/000081541>

SFR タイムラインのデータ形式が「不明」と示される

OpsCenter で収集されたイメージの場合、データが不足しているため、SFR 時系列ビューでデータ形式が[不明 (unknown)]と表示されます。

OpsCenter では、異なるタブまたはウィンドウからの同一ユーザーセッションに対して同時に複数のレポートを作成または編集することができない

OpsCenter は、異なるタブまたはウィンドウからの同一ユーザーセッションに対して同時に複数のレポートを作成または編集することができません。同じ OpsCenter コンソールを複数のブラウザタブまたはウィンドウで開いて、同時に標準およびカスタムレポートを作成または編集できません。これにより、例外が発生する可能性があります。

レポート対象がストレージユニット名に設定されていると、重複排除レポートにデータが表示されない

[レポート対象 (Report On)]パラメータを[ストレージユニット名 (Storage Unit Name)]として選択した場合、複製レポートにはデータが表示されません。

VMware と Hyper-V での検索操作と復元操作

VMWare クライアントまたは Hyper-V クライアントでは、クライアント名がホスト名と同じであるときにのみ検索とリストアの実行できます。クライアント名が表示名、UUID、DNS 名と同じである場合は、検索機能のみ利用可能です。この場合はリストア操作を実行できません。次の表に、クライアント名がホスト名、表示名などであるときに検索とリストアの機能が利用可能かどうかの詳細を示します:

Client Name Type	Search	Restore
Host Name	Yes	Yes
Display Name	Yes	No
UUID	Yes	No
DNS Name	Yes	No

50 を超える項目を含むファイル選択リストは OpsCenter に表示されない

50 を超える項目を含んでいるファイル選択リストは OpsCenter に表示されません。

OpsCenter Analytics カスタムレポートの特定のジョブ ID に対し、分割ジョブデータは、50 のジョブディレクトリでのみ利用できます。これは、NetBackup ポリシーまたはジョブが 50 を超えるバックアップ対象に関連付けられている場合に、データは 50 のバックアップ対象に対してのみ利用可能であるためです。NetBackup ユーザーインターフェースは、それ以降 (50 を超えた) のバックアップ対象のデータを切り捨てます。

VBR を使うと、ジョブまたはポリシーに関連するすべてのジョブディレクトリの分割ジョブ情報を表示できます。これは、VBR のデータ収集が nbs1 経由ではなく CLI で発生するからです。

OpsCenter は分割ジョブをパージするオプションを提供しない

VBR とは異なり、OpsCenter は分割ジョブをパージするオプションを提供しません。VBR コンソールでは、[設定 (Settings)]>[グローバル設定 (Global Settings)]>[データ保持 (Data Retention)] セクションから特定の分割ジョブをパージできます。

複数の結果セットがあるストアードプロシージャの一部の結果セットが表示されないことがある

複数の結果セットがあるストアードプロシージャを実行するとき、インターフェースには最初の結果セットの出力のみが表示されます。他の結果セットの出力はインターフェースに表示されません。

Windows での仮想ホスト名の文字数制限

Windows 上ではクラスタテクノロジーによる仮想名の文字数が限定されます。

仮想ホスト名は、15 文字未満の省略名 (FQDN ではない) である必要があります。

一部のレポートは完全および増分スケジュール形式のジョブのみを考慮する場合がある

[スケジュール/レベルの形式 (Schedule/Level Type)] フィルタに値 [すべて (All)] を適用すると、次のレポートでは完全および増分スケジュール形式のジョブのみが考慮されません。

- 詳細な成功率 (Advanced Success Rate)
- 失敗したすべてのバックアップ (All Failed Backups)
- 連続失敗レポート (Consecutive Failures Report)
- 成功率ライン (Success Rate Line)

OpsCenter のオブジェクトの結合ユーティリティがマスターサーバーで失敗する

OpsCenter のオブジェクトの結合ユーティリティはマスターサーバーでは失敗します。

OpsCenter のオブジェクトの結合ユーティリティ ([設定 (Settings)] > [構成 (Configuration)] > [オブジェクトの結合 (Object merger)]) はマスターサーバーでは動作しません (失敗します)。オブジェクトの結合ユーティリティはクライアントとメディアサーバーで動作します。

NetBackup のアップグレード後に、OpsCenter サーバーがマスターサーバーからのイベントの受信を停止する

OpsCenter サーバーが、NetBackup のアップグレード後にマスターサーバーからのイベントの受信を停止することがあります。

次のすべての条件に当てはまる場合、UNIX システムの `bp.conf` ファイルまたは Windows システムのレジストリに `OPS_CENTER_SERVER_NAME` エントリを追加して、OpsCenter のサーバーの名前を設定する必要があります。アップグレードを試みる前にこのエントリを追加することを推奨します。

- `REQUIRED_INTERFACE` がマスターサーバーに構成されている。
- OpsCenter サーバーがマスターサーバーを監視する。
- `OPS_CENTER_SERVER_NAME` エントリがマスターサーバーに構成されていない。

このエントリを追加しないと、OpsCenter サーバーはアップグレード後にマスターサーバーからのイベントの受信を停止する可能性があります。

[監視 (Monitor)]>[ホスト (Hosts)]>[クライアント (Clients)] ページからクライアントを検索できる (属性では検索できない)

VBR のパリティを保持するために OpsCenter の機能が強化されました。

[監視 (Monitor)]>[ホスト (Hosts)]>[クライアント (Clients)] ページからクライアントを検索できるようになりました。ホスト名または部分文字列を使って検索できます。

ただし、検索できるのはクライアントのみであり、CPU 数、CPU 速度、検出されたエージェントサーバーなどの他の属性は検索できません。

ジョブ数作業負荷アナライザの合計規則

[ジョブ数作業負荷アナライザ (Job Count Workload Analyzer)] では、選択されている単位時間が [実行中 (Active)] の場合、表示される数の合計が最初の列に表示される合計と異なります。これは、ジョブが実行中で、複数時間の時間枠にわたっている可能性があるため、予想された動作です。したがって、同じジョブがすべての時間でカウントされます。ただし、最初の列の数は対象となる 7 日間に実行中だったジョブの正確な数を示します。これは、単位時間が [開始 (Start)] または [終了 (End)] で実装されている場合とは異なります。この場合、セルに表示される数の合計は最初の列に表示される数と一致します。

OpsCenter の履歴サポートでの夏時間のサポート

OpsCenter での履歴サポートでの夏時間 (DST) のサポート

履歴レポートのデータが夏時間が始まる時間の間に同期された場合、分散型データベースシステムで問題が起きることがあります。ユーザーはまたデータを失う場合があります。

回避策として、世界時 (UTC) をタイムゾーンとして使うか、または夏時間がないタイムゾーンを使ってください。

タイムゾーンを設定するには、『Veritas OpsCenter 管理者ガイド』を参照してください。

OpsCenter は IPv6 のみのサーバーを監視できない

OpsCenter は IPv6 のみのサーバーを監視できません。監視対象の各サーバーには、利用可能な IPv4 アドレスが必要です。ただし、OpsCenter はデュアルスタックサーバーをサポートします。デュアルスタックサーバーでは、利用可能な IPv4 アドレスが使われます。

NetBackup ディスクプールのサイズと使用率の比較レポートに不正なデータが表示される

OpsCenter の NetBackup ディスクプールのサイズと使用率の比較レポートは、OpsCenter に 1 日以上のディスク プール サイズ データがないとき不正なデータを示す場合があります。

この問題は、レポートがディスクのプールサイズを毎日計算し、レポートで平均値を示すために発生します。選択されたレポートの対象期間にデータが不足している場合、不正な平均データが作成されます。

Windows コンピュータ上のリモート OpsCenter View Builder から OpsCenter サーバーにアクセスする際の問題

OpsCenter データベースをホストしていない Windows コンピュータ上のリモート OpsCenter View Builder を使用する場合は、データベース接続の問題が発生する場合があります。

この問題は次のいずれかのシナリオで発生します。

- OpsCenter サーバーのネットワーク名とホスト名が一致しないとき
- OpsCenter サーバーホストとリモート View Builder ホストが別々のドメインにあるとき

この問題を回避するには、次の手順を実行します。

1. OpsCenter サーバーのホスト名を View Builder の `etc/hosts` ファイルに追加します。
2. View Builder のホスト名を OpsCenter サーバーの `etc/hosts` ファイルに追加します。

メモ: ホストの短縮名および完全修飾ドメイン名 (FQDN) を `etc/hosts` ファイルに追加します。

NetBackup レプリケーションディレクトクの操作上の注意事項

レプリケーションディレクトクは NetBackup OpenStorage の管理対象スナップショットおよびスナップショットレプリケーションの実装であり、スナップショットはパートナー企業のストレージシステムに格納されます。レプリケーションディレクトクは、メディアサーバーの OpenStorage プラグインを使用して、ディスクアレイと通信し (ストレージサーバーを介して)、データ移動を要求します。OpenStorage パートナーは、NetBackup とディスクアレイ間の通信を可能にするソフトウェアプラグインもホストします。このトピックでは、NetBackup

8.0 のレプリケーションディレクタとその関連プラグインに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NBUPlugin 1.1 で指定した時点へのリストア後に複製が失敗する

Replication Director のレプリケーションは、特定の時点へのリストアが実行された後に失敗することがあります。

この問題は、Replication Director に設定されているポリシーのレプリケーションジョブエラーに関連しています。この問題は、NBUPlugin 1.1 を次の状況で使用するときに発生します。

- 最初に、Replication Director ポリシーが正常に実行される。ポリシーはプライマリデータのスナップショット操作を含む SLP と、トポロジーのレプリケーション (SnapVault) 操作を使います。
- 次に、[より新しいスナップショットが破壊されても、強制的にロールバックする (Force rollback even if it destroys later snapshots)] オプションを有効にしてポリシーでボリュームからの 1 つ以上の特定時点 (PIT: Point-in-Time) へのリストアが正常に実行される。

レプリケーションジョブは次にポリシーが実行されるときに失敗します。DataFabric Manager サーバーは次のエラーメッセージを生成します。

```
DFM Job (On-demand Protection) is failing with Error base
snapshot for transfer no longer exists on the source.
```

(リストアで指定されたオプションが有効になっていた場合) PIT へのリストアによって基本スナップショットが削除されるため、レプリケーションジョブは失敗します。レプリケーション操作に複製する基本スナップショットがありませんでした。

正常なレプリケーションジョブに戻るには、NetApp CLI を使ってプライマリボリュームとターゲットボリューム間の関係を再同期化してください。

NBUPlugin 1.1 の複製がエラーコード 84 で失敗する

NBUPlugin 1.1 では、次の両条件に該当するとき、レプリケーションがエラーコード 84 (メディア書き込みエラー) の表示とともに失敗する場合があります。

- NetBackup のポリシーには (ストレージユニットグループとして NetBackup で設定された) 複数の DFM からのボリュームのバックアップ選択項目があります。
- SLP には端末増設機構のトポロジー (複数のレプリケーションが同じコピー元から発生) があります。次に、端末増設機構のトポロジーの例を示します。

```
Snapshot
|
----- Replication (SnapVault)
```

```
|
----- Replication (SnapMirror)
```

回避策は、端末増設機構のトポロジーがあつたら、単一の DFM のボリュームが存在するようにポリシーを設定してください (ポリシーを複数のポリシーに分割する)。

[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)] インターフェースのファイルを参照する際のデータベースシステムエラー

[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)] ユーザーインターフェースでファイルを参照するとき、次のエラーが報告されることがあります。

エラー、データベースのシステムエラーです

このメッセージは、サポートされていないファイルシステム、スナップショットのマウントの失敗、その他ハードウェアやネットワークの問題など、さまざまな問題を示すことがあります。

ログレベルが 4 以上に設定されているとインデックスログが肥大化する

インデックス付けジョブの結果として生成される `ncf1bc` および `ncfnbhfr` のログのサイズは非常に大きい場合があります。ログファイルのサイズはログレベルが 4 以上に設定されていると、急速に増加する場合があります。

この問題を回避するために、NCF のログ記録レベルを (3 以下に) 下げることができます。また、高い NCF のログレベルに対応したい場合、ログファイルのロールオーバーのモード、最大ログファイルサイズ、またはログファイル数を調整できます。

vCenter 2.5 または ESX 3.5 以前を実行している仮想マシンで検出が失敗する

vCenter 2.5 または ESX 3.5 以前を実行している仮想マシンで、検出が失敗する場合があります。バージョン 4 以前の vCenter バージョンは公式にサポートされないことに注意してください。

ストレージの読み込み速度が遅いと、NetBackup Accelerator を使った SLP でのバックアップが状態コード 13 で失敗する

ストレージの読み込み速度が遅いと、SLP で NetBackup Accelerator が有効になっているバックアップ操作が、状態コード 13 (ファイル読み込みの失敗) を表示して失敗する場合があります。この問題は、特に、NetBackup が 5 分間で少なくとも 500 MB のデータを読み込めない場合に発生します。

回避策: グローバルなクライアントのタイムアウト値をデフォルトの 5 分 (300 秒) より大きい値、たとえば 10 分 (600 秒) に調整してください。タイムアウト値は、NetBackup 管理コンソール ([ホストプロパティ (Host Properties)]>[タイムアウト (Timeouts)]>[クライアントの読み込みタイムアウト (Client read timeout)]) または `bp.conf` ファイル (`CLIENT_READ_TIMEOUT = 600`) で調整できます。

Linux で、NFS マウントのスナップショットが状態コード 20 で失敗する

NFS マウントのスナップショットジョブが、NFS の再マウントエラーにより Linux で状態コード 20 を表示して失敗する場合があります。ただし、以降のスナップショットジョブの実行は成功することがあります。

NetApp Plug-in for NetBackup 1.0.1 が特定の状況下でクラッシュする

NetApp Plug-in for Veritas NetBackup バージョン 1.0.1 が、次の場合にクラッシュすることがあります。

- NDMP ストレージライフサイクルポリシーを実行しているとき
- ワークフローをエクスポート (インデックス付け、バックアップ、リストアまたは参照) しているとき
- コピー 2 または 3 (コピー 1 ではなく) をエクスポートしているとき

この問題を回避するには、この問題の修正が含まれる NetApp Plug-in for Veritas NetBackup の最新版にアップグレードしてください。

特定の状況下で、NetApp Plug-in for NetBackup 1.0.1 で複製に失敗することがある

NetApp Plug-in for Veritas NetBackup バージョン 1.0.1 を使っている場合に、複製エラーが発生することがあります。次の条件をすべて満たしている場合には、複製が失敗することがあります。

- 複数ボリュームがバックアップ選択項目に存在している
- 宛先が SnapMirror になっている
- ボリュームの少なくとも 60% がいっぱいになっている
- NAS ストレージが使用されている

次はエラーを示す場合があるいくつかの症状です。

- NetBackup のアクティビティモニター:

```
Replicate failed for backup id <backup id>  
with status 174 failed waiting for child process (34)
```

- bpdmd ログ。

```
Error bpdmd (pid=19319) <async> wait failed:
error 2060001: one or more invalid arguments
```

- NetApp 管理コンソール。

```
destination volume too small; it must be equal to
or larger than the source volume
```

[プライマリ (Primary)] > [ミラートポロジ (Mirror Topology)] のポリシーのすべてのイメージを処理するときにスナップショットの漏えいが発生する

NetApp では、[プライマリ (Primary)] > [ミラートポロジ (Mirror Topology)] のポリシーを持つ [すべて (ALL)] のイメージを処理するときに問題があります。スナップショットが NetBackup のカタログからは削除され、ストレージからは削除されていない場合に、スナップショットの漏えいが発生する場合があります。

スナップショットを削除し、ストレージを再利用するには、DataFabric Manager (DFM) サーバーで次のコマンドを実行してください。

```
snapmirror release <src_vol><dst_filer>:<dst_vol>
```

ボリュームレベルでの別の差分バックアップを使ったリストアはデータ損失の原因になる

通常、差分バックアップから単一ファイルをリストアする場合、バックアップから選択したファイルだけがリストアされます。しかし、レプリケーションディレクタを使用する場合には、選択されたファイルだけでなく、バックアップに含まれる他のすべてのファイルもリストアされます。リストアは、差分バックアップが実行されてから変更のあったファイルを上書きするので、これがデータ損失の原因になります。

前回の差分バックアップ以降変更のあったファイルを意図せず上書きしないようにするには、[バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)] インターフェイスでボリューム全体を選択しないようにします。リストアの必要があるファイルのみを選択するようにしてください。

qtree が DFM サーバーで更新されていない場合 SnapVault レプリケーションはデータ損失の原因になる場合がある

ボリュームに新しく追加された qtree は、ストレージライフサイクルポリシーが Snapshot-to-Replication (SnapVault) トポロジを示している場合、レプリケーションディレクタポリシーによって保護されない場合があります。

レプリケーションディレクトリポリシーの実行前に、DataFabric Manager サーバーインターフェースを使って、ボリューム上の新しい qtrees が更新されていることを確認します。ボリューム上の新しい qtrees は、NetApp DFM サーバーの制限により、頻繁には更新されません。

レプリケーションディレクトリポリシーはインシデントなしで実行できますが、NetBackup の [バックアップ、アーカイブおよびリストア (Backup, Archive, and Restore)] インターフェースで参照するとき、SnapVault レプリカに qtrees が含まれない可能性があります。

詳しくは、NetApp Plug-in 1.1 for NetBackup を参照してください。

https://library.netapp.com/ecm/ecm_download_file/ECMP1140478

(NetApp サイトにアクセスするにはログインする必要があります。)

Replication Director のポリシー検証が完了するのに時間がかかる

Replication Director のポリシー検証が完了するのに時間がかかる場合があります。この操作が完了するまでは、他の操作を実行できません。NetBackup 管理コンソールの新規インスタンスを開いて、他の操作を実行します。

NetBackup Snapshot Client の操作上の注意事項

NetBackup Snapshot Client は NetBackup に各種のスナップショットベースの機能を提供します。ファイバーチャネルネットワーク (SAN) または従来の LAN に接続されている UNIX、Linux および Windows プラットフォームのクライアントがサポートされています。それぞれのスナップショット方式は、データが格納されるストレージサブシステムに組み込まれているスナップショットテクノロジーに依存します。この項では、NetBackup 8.0 の Snapshot Client に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

アレイ上の VxVM ディスクグループに VxVM ボリュームのソフトウェアベースのスナップショットが含まれていると、ディスクアレイのスナップショットを作成できない

NetBackup では、アレイの VxVM ディスクグループに VxVM ボリュームのソフトウェアベースのスナップショットが含まれている場合に、ディスクアレイのスナップショットを作成できません。

ディスクアレイ上の VxVM ボリュームのソフトウェアベースのスナップショット (VxVM 方式など) が既に存在する場合には、NetBackup は、VxVM ボリューム上で構成されるファイルシステムのディスクアレイスナップショットを作成できません。スナップショットの作成が失敗し (最終状態 156)、vxmake コマンドのエラーを報告するメッセージが bpfis ログに記録されます。

ディスクアレイのスナップショット方式でバックアップを実行する前に、VxVM ディスクグループから既存の VxVM スナップショットを削除する必要があります。

ディスクアレイのスナップショット方式の例には、EMC_CLARiiON_SnapView_Snapshot、HP_EVA_Snapshot、Hitachi_CopyOnWrite、IBM_StorageManager_FlashCopy があります。すべてのディスクアレイ方式については、『NetBackup Snapshot Client 管理者ガイド UNIX、Windows および Linux』のディスクアレイ用のスナップショット方式の構成に関する章を参照してください。

NetBackup 仮想化の操作上の注意事項

NetBackup には、仮想環境を保護するためのいくつかの方法が用意されています。NetBackup は、主に VMware と Hyper-V という 2 つの仮想化技術を保護できますが、その他の仮想化技術も保護できます。このトピックでは、NetBackup 8.0 による仮想化技術の保護に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NetBackup for VMware の操作上の注意事項

NetBackup for VMware は、VMware ESX Server 上で動作する VMware 仮想マシンのバックアップおよびリストアを実現します。また、VMware vCenter 用 NetBackup プラグイン (vCenter プラグイン) を使うと、vSphere Client で仮想マシンのバックアップを監視し、バックアップから仮想マシンをリカバリすることができます。このトピックには、NetBackup for VMware および NetBackup 8.0 の vCenter プラグインに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

Windows ダイナミックディスクを使用している VMware VM の場合、Windows リストアホストと hotadd トランスポートモードでは、増分バックアップからのリストアが失敗する

hotadd 転送モードによる Windows 仮想マシンのリストアは、以下の場合に失敗することがあります。

- ダイナミックディスクグループがある Windows 仮想マシンのバックアップが実行された。
- バックアップ後に、仮想マシンのディスクグループに別のダイナミックディスクが追加された。
- ダイナミックディスクを追加した後に、仮想マシンの増分バックアップが実行された。
- Windows リストアホストを hotadd トランスポートモードで使用して、増分バックアップから仮想マシンをリストアした。

詳細と回避策については、ベリタス社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000023491>

リストアされた仮想マシンが起動できない、またはファイルシステムにアクセスできない

次の場合、リストアされた仮想マシンが起動できない、またはファイルシステムにアクセスできない可能性があります。

- 仮想マシンのゲストオペレーティングシステムが Windows 8
- 仮想マシンが Block Level Incremental のバックアップイメージからリストアされている
- リストアが hotadd トランスポートモードを使用している

VDDK 5.5.x の VMware の問題により、リストアした仮想マシンの Windows NTFS マスターファイル表が破損している可能性があります。

回避策として、hotadd 以外のトランスポートモードで仮想マシンをリストアしてください。

NetBackup for Hyper-V の操作上の注意事項

NetBackup for Hyper-V では、さまざまなバージョンの Windows サーバー上で動作する仮想マシンのスナップショットベースのバックアップを提供します。このトピックでは、NetBackup 8.0 の NetBackup for Hyper-V に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

Windows 2016 Hyper-V VM が SMB 3.0 共有に一部しかリストアされない

NetBackup 8.0 の WMI バックアップアップ方式に、Windows SMB (Server Message Block) 3.0 ファイル共有でホストする Windows Hyper-V 2016 VM のサポートが追加されました。VM のリストア時に、リストア先のファイル共有に十分な権限が設定されていないと、リストアがステータス 1 (要求された操作は部分的に成功しました) で完了します。次のようなメッセージが NetBackup ジョブの詳細ログに表示されます。

代替データストリームと権限を含む VHD/VHDX メタデータを設定できません。VM がブートしない場合は VM の仮想ディスクファイルの権限を確認してください。

メモ: VM のファイルはリストアされますが、NetBackup は VHD ファイルまたは VHDX ファイルの所有者をリストアできません。

完全にリストアするには次の操作を実行します。

- ファイル共有とデータが存在する共有元ファイルシステムに権限を追加します。この権限は、Hyper-V サーバーと Hyper-V クラスタのフルコントロールを付与する権限である必要があります。

- VM のリストア先の Hyper-V サーバーで、LocalSystem ユーザーアカウントではなく Domain\Administrator で NetBackup Client Service を実行していることを確認します。

これらの変更が完了したら、リストアを再実行します。リストアジョブでステータス 0 (要求された操作は正常に完了しました) が返されるはずです。

ストレージサーバー名にアンダースコアが含まれる場合に、MSDP を使用して Hyper-V アクセラレータのバックアップを作成できない

次の場合は、Hyper-V のバックアップを作成できません。

- Hyper-V バックアップポリシーに WMI バックアップ方式を使用し、「アクセラレータを使用」オプションを設定する。
- 格納先をメディアサーバー重複排除プール (MSDP) にして、MSDP ストレージサーバーの名前にアンダースコア (_) を使用する。たとえば、msdp_server1.acme.com のような名前。

この場合、バックアップはステータス 20 (無効なコマンドラインパラメータ) で失敗します。ジョブの詳細ログに、次のようなメッセージが表示されます。

```
Nov 11, 2016 8:02:38 PM - Error bpbrm (pid=7824) could not send
server status message
```

```
Nov 11, 2016 8:02:42 PM - Critical bpbrm (pid=7824) unexpected
termination of client
```

```
Hyper-V_VM_MATRIX%20ForTest-WINDOWS_MATRIX%20ForTest_MATRIX
```

```
Nov 11, 2016 8:02:42 PM - Info bpbkar32 (pid=0) done. status: 20:
invalid command parameter
```

VM のバックアップを正常に作成するには、MSDP ストレージサーバー名からアンダースコア文字を削除します。

[バックアップポリシーの構成ウィザード (Backup Policy Configuration Wizard)]は Hyper-V での WMI バックアップ方式をサポートしていない

NetBackup 8.0 では、Hyper-V ポリシーに対して WMI バックアップ方式のサポートが追加されています。WMI 方式では、ブロックレベルの増分バックアップ、Windows Server 2016 上の Hyper-V 仮想マシンの高速バックアップ用の Accelerator が有効になります。

メモ: [バックアップポリシーの構成ウィザード (Backup Policy Configuration Wizard)] は、WMI バックアップ方式をサポートしません。WMI のポリシーを構成するには、ポリシーユーティリティまたは NetBackup コマンドラインを使います。詳しくは、次の URL から入手可能な 8.0 バージョンの『NetBackup for Hyper-V 管理者ガイド』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

WMI 方式を使ったバックアップ中に VM にユーザーチェックポイントが存在する場合、リストア後に仮想マシンの仮想ディスク設定を変更できない

NetBackup WMI バックアップの開始時に仮想マシン (VM) にユーザーが作成したチェックポイントが存在すると、NetBackup はチェックポイント .avhdx ファイルをバックアップイメージに含めます。その VM をバックアップからリストアするときに、.avhdx ファイルは VM の親ディスクに自動的にマージされません。その結果、リストアした VM の特定の設定 (仮想ハードディスクなど) を変更できなくなります。Hyper-V Manager に「この仮想マシンにはチェックポイントがあるため、[編集] は使用できません。」と表示されます。

この問題は Microsoft 社の問題によるものです。回避策として、リストアした VM のチェックポイントを手動で作成し、削除します。この操作により、すべての .avhdx ファイルの自動的なディスクマージが開始されます。マージ後に、VM 設定を変更できます。

Microsoft SCVMM (System Center Virtual Machine Manager) コンソール用 NetBackup アドインの操作上の注意事項

Microsoft SCVMM (System Center Virtual Machine Manager) コンソール用 NetBackup アドインを使用すると、NetBackup バックアップイメージから仮想マシンをリカバリできます。この項では、NetBackup 8.0 の Microsoft SCVMM コンソール用 NetBackup アドインに関連する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

VM 設定ファイルがデフォルトのデータルートフォルダに存在しない場合に SCVMM アドインが Hyper-V VM を元の場所にリストアできない

NetBackup SCVMM アドインを使用して VM を元の場所にリストアすると、次の場合にリストアに失敗します。

- VSS ではなく WMI バックアップ方式を使用してバックアップを作成した
- VM 設定ファイルの格納先であるデフォルトのフォルダ (データルートフォルダと呼ぶこともある) に VM をリストアしようとした

リストアはステータス 2821 で失敗し、状態ログの詳細に次のようなメッセージが表示されます。

```
Nov 16, 2016 8:41:41 PM - Info bpVMutil (pid=1524) FTL - Failed to
perform one or more post-restore tasks. Error: HVERR : Failed to
import from config file:
C:\ProgramData\Microsoft\Windows\Hyper-V\Virtual
Machines\B84DA7CD-2E3B-401B-
849B-A62092E38324.vmcx Error: The operation failed because a virtual
machine with the same identifier already exists. Select a new
identifier and try the operation again.
Nov 16, 2016 8:41:41 PM - end Restore; elapsed time 0:03:03
Hyper-V policy restore error (2821)
```

回避策として、VM を別の場所 (VM 設定ファイルのデフォルトフォルダ以外) にリストアします。

メモ: VM 設定ファイルのデフォルトフォルダを設定するには、Hyper-V サーバーを右クリックして [Hyper-V の設定]、[仮想マシン] の順に選択します。

リカバリウィザードの [次へ (Next)] ボタンが、必要な入力が入力されなくても有効になる

SCVMM 用 NetBackup アドインのリカバリウィザードでは、[次へ (Next)] ボタンは必要な入力が入力されなくても有効になります。次のような場合、SCVMM 用 NetBackup アドインのリカバリウィザードは、完了前に [次へ (Next)] ボタンを有効にします。

- アドインの [マスターサーバーの管理 (Manage Master Servers)] 画面で、無効なマスターサーバー用に認証トークンが追加されました。例: トークンは既存のマスターサーバー用に生成されましたが、[マスターサーバーの管理 (Manage Master Servers)] 画面でサーバー名が不正確に入力されました。
- 第 2 マスターサーバーとその認証トークンが追加され、マスターサーバー名が正しく入りました。

ウィザードの [仮想マシンの選択 (Virtual Machine Selection)] 画面で第 2 マスターサーバーを選択するときに、VM 識別子を選択しないで [次へ (Next)] をクリックできます。このウィザードでは各画面の入力を完了しないで画面から画面に進むことができます。必要な入力をしないで続行した場合には、ウィザードの最後の画面の [リカバリ (Recovery)] ボタンは灰色になります。

メモ: ウィザードの [次へ (Next)] ボタンは各画面の入力が完了するまで灰色のままになります。

リストアを実行するには、ウィザードを戻って必要な入力を行います。無効なマスターサーバーも削除してください。

[VM 識別子 (VM Identifier)] フィールドが誤って [表示名 (Display Name)] としてラベル付けされる

アドインのリカバリウィザードの [リストアオプション (Restore Options)] 画面に表示される、[表示名 (Display Name)] フィールドのラベルは、[VM 識別子 (VM Identifier)] となるべきものです。

SCVMM 用 NetBackup アドインのリカバリウィザードで VM の上書きが求められずに、リカバリが失敗する

Microsoft SCVMM コンソール用 NetBackup アドインが、次の状況で VM のリカバリを完了しません。

- アドインのリカバリウィザードの仮想マシンの選択の画面で、VM がその表示名ではなく、GUID またはホスト名で識別される。
- ウィザードの [リストアオプション (Restore Options)] 画面で、既存の仮想マシンの上書きオプションが選択されていない。
- リカバリ先に同じ VM が存在する。

[リカバリ (Recover)] をクリックしたときに、ウィザードは、リカバリ先の VM を検出し、次に上書きオプションを選択するようにメッセージを表示するはずですが、プロンプトが表示されず、リカバリジョブを開始しても状態 2821 で失敗します。

VM をリカバリするために、[リストアオプション (Restore Options)] 画面で [既存の仮想マシンの上書き (Overwrite existing virtual machine)] を選択してリカバリを再実行します。

SCVMM Rollup 5 と 6 で、Hyper-V サーバー上の代替の場所に VM をリストアできない

Microsoft SCVMM 用 NetBackup アドインは、VM の元の場所や代替の場所へのリストアをサポートします。アドインは Rollups 1 から 6 を含む System Center 2012 R2 Virtual Machine Manager をサポートします。ただし、SCVMM のバージョンが Rollup 5 または 6 の場合には、アドインは対象の Hyper-V サーバーの代替の場所に VM をリストアできません。[参照 (Browse)] をクリックしてアドインの [リストアオプション (Restore Options)] 画面でリストアの場所を指定するときには、次のメッセージが表示されます。

```
Exception has been thrown by the target of an invocation.
```

NetBackup 管理者は NetBackup の [バックアップ、アーカイブ、およびリストア (Backup, Archive, and Restore)] インターフェースを使って代替の場所に VM をリストアできます。

NetBackup ユーザーの SORT について

この付録では以下の項目について説明しています。

- [Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)
- [SORT の新規インストールのための推奨手順](#)
- [SORT のアップグレードのための推奨手順](#)

Veritas Services and Operations Readiness Tools について

Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT) は、ベリタスエンタープライズ製品をサポートするスタンドアロンと Web ベースの強力なツールセットです。

NetBackup では、SORT によって、複数の UNIX/Linux または Windows 環境にまたがってホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。このデータは、システムで NetBackup の最初のインストールまたはアップグレードを行う準備ができているかどうかを評価するのに役立ちます。

次の Web ページから SORT にアクセスします。

<https://sort.veritas.com/netbackup>

SORT ページに移動すると、次のように多くの情報を利用可能です。

- インストールとアップグレードのチェックリスト
このツールを使うと、システムで NetBackup のインストールまたはアップグレードを行う準備ができているかどうかを確認するためのチェックリストを作成できます。このレポートには、指定した情報に固有のソフトウェアとハードウェアの互換性の情報がすべて含まれています。さらに、製品のインストールまたはアップグレードに関する手順とその他の参照先へのリンクも含まれています。

- **Hotfix と EEB Release Auditor**
このツールを使うと、インストールする予定のリリースに必要な Hotfix が含まれているかどうかを調べることができます。
- **カスタムレポート**
このツールを使うと、システムとベリタスエンタープライズ製品に関する推奨事項を取得できます。
- **NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定**
このツールを使用すると、今後新しい機能や改善された機能と置き換える項目に関する情報を入手できます。さらに、今後置き換えられることなく廃止される項目に関する情報を入手することもできます。これらの項目のいくつかには **NetBackup** の特定の機能、他社製品の統合、ベリタス製品の統合、アプリケーション、データベースおよび OS のプラットフォームが含まれます。

SORT ツールのヘルプが利用可能です。SORT ホームページの右上隅にある[ヘルプ (Help)]をクリックします。次のオプションがあります。

- 実際の本のようにページをめくってヘルプの内容を閲覧する
- 索引でトピックを探す
- 検索オプションを使ってヘルプを検索する

SORT の新規インストールのための推奨手順

ベリタスは新規の NetBackup ユーザーに対して、SORT の最初の導入時にリストされる 3 つの手順を実行することをお勧めします。このツールには他にも多くの機能が備わっていますが、これらの手順は SORT の概要を知る上で役立ちます。さらに、これらの手順を実行することで、その他の SORT 機能に関する有用で基本的な知識が備わります。

表 A-1

手順	詳細
SORT Web ページに Veritas Account を作成します。	p.73 の「 SORT ページに Veritas Account を作成する方法 」を参照してください。
汎用インストールレポートを作成します。	p.73 の「 汎用インストールチェックリストを作成する方法 」を参照してください。
システム固有のインストールレポートを作成します。	p.74 の「システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合)」を参照してください。 p.75 の「システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合)」を参照してください。

SORT ページに Veritas Account を作成する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 右上で[ログイン (Login)]をクリックしてから、[今すぐ登録 (Register now)]をクリックします。
- 3 要求された次のログインおよび連絡先情報を入力します:

電子メールアドレス(Email 電子メールアドレスを入力し、検証してください
address)

パスワード (Password) パスワードを入力し、検証してください

名 (First name) 名を入力してください

姓 (Last name) 姓を入力してください

会社名 (Company name) 会社名を入力してください

国 (Country) 国を入力してください

優先言語 (Preferred language) 優先言語を選択してください

CAPTCHA テキスト (CAPTCHA text) 表示される CAPTCHA テキストを入力してください。必要に応じて、イメージを更新してください。

- 4 [送信 (Submit)]をクリックします。
- 5 ログイン情報の受信時に SORT にログインしてカスタマイズした情報のアップロードを開始できます。

汎用インストールチェックリストを作成する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [インストールとアップグレードのチェックリスト (Installation and Upgrade Checklist)]ウィジェットを見つけて選択します。

3 要求された情報を指定します

製品 (Product)	ドロップダウンメニューから適切な製品を選択してください。 NetBackup の場合は NetBackup Enterprise Server または NetBackup Server を選択してください。
インストールするまたはアップグレード後の製品バージョン (Product version you are installing or upgraded to)	NetBackup の適切なバージョンを選択してください。最新バージョンは常にリストの一番上に示されます。
プラットフォーム (Platform)	生成するチェックリストに対応するオペレーティングシステムを選択してください。
プロセッサ (Processor)	チェックリストに対して適切なプロセッサの種類を選択してください。
アップグレード前の製品バージョン (任意) (Product version you are upgrading from (optional))	新規インストールの場合は、何も選択しないでください。アップグレードの場合は、現在インストールされている NetBackup のバージョンを選択できます。

4 [チェックリストの生成 (Generate Checklist)]をクリックします。

5 選択内容に対応するチェックリストが作成されます。この画面で選択内容を変更できます。[チェックリストの生成 (Generate Checklist)]をクリックすると、新しいチェックリストが作成されます。

結果の情報は PDF として保存できます。**NetBackup** では多数のオプションを利用可能で、それらの多くは生成されたチェックリストに示されます。各セクションを十分に確認して、環境に適用するかどうかを判断してください。

システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合)

1 SORT の Web サイトに移動します。

<https://sort.veritas.com/netbackup>

2 [インストールとアップグレード (Installation and Upgrade)]セクションで、[SORT データコレクタによるインストールとアップグレードのカスタムレポート (Installation and Upgrade custom reports by SORT data collectors)]を選択します。

3 [データコレクタ (Data Collectors)]タブを選択します

- 4 [グラフィカルユーザーインターフェース (Graphical User Interface)]のラジオボタンを選択して、プラットフォームに対して適切なデータコレクタをダウンロードします。

データコレクタは OS 固有です。Windows コンピュータに関する情報を収集するには、Windows データコレクタが必要です。UNIX コンピュータに関する情報を収集するには、UNIX データコレクタが必要です。
- 5 ダウンロードが終わったら、データコレクタを起動します。
- 6 [ようこそ (Welcome)]画面の[製品ファミリー (product family)]セクションで NetBackup を選択して、[次へ (Next)]をクリックします。
- 7 [システムの選択 (System Selection)]画面で、分析するすべてのコンピュータを追加します。[参照 (Browse)]をクリックすると、分析に追加可能なコンピュータのリストを確認できます。管理者アカウントまたは root アカウントでツールを起動することをお勧めします。
- 8 すべてのシステムを選択したら、[システム名 (System names)]セクションを確認して[次へ (Next)]をクリックします。
- 9 [検証オプション (Validation Options)]画面の[検証オプション (Validation options)]下で、アップグレード後のバージョンを選択します。
- 10 [次へ (Next)]をクリックして続行します。
- 11 ユーティリティによって要求されたチェックが実行され、結果が表示されます。レポートをマイ SORT にアップロードできます。また結果を印刷したり保存できます。分析を一元管理しやすくするために、結果はマイ SORT Web サイトにアップロードすることをお勧めします。[アップロード (Upload)]をクリックして、マイ SORT のログイン情報を入力すると、データがマイ SORT にアップロードされます。
- 12 終了したら、[完了 (Finish)]をクリックしてユーティリティを閉じます。

システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合)

- 1 SORT の Web サイトに移動します。

<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [インストールとアップグレード (Installation and Upgrade)]セクションで、[SORT データコレクタによるインストールとアップグレードのカスタムレポート (Installation and Upgrade custom reports by SORT data collectors)]を選択します。
- 3 [データコレクタ (Data Collector)]タブを選択します。
- 4 プラットフォームに対して適切なデータコレクタをダウンロードします。

データコレクタは OS 固有です。Windows コンピュータに関する情報を収集するには、Windows データコレクタが必要です。UNIX コンピュータに関する情報を収集するには、UNIX データコレクタが必要です。
- 5 ダウンロード済みのユーティリティを含むディレクトリに変更します。

6 実行 (Run). /sortdc

ユーティリティによって、最新バージョンのユーティリティがインストールされていることを確認するためのチェックが実行されます。さらに、ユーティリティによって、最新のデータが含まれているかどうかチェックされます。この処理の後、ユーティリティによって、このセッションのログファイルの場所がリストされます。

7 要求されたら、Enter キーを押して続行します。

8 メインメニューで[NetBackup ファミリー (NetBackup Family)]を選択します。

9 [何をしますか? (What task do you want to accomplish?)]というプロンプトが表示されたら、[インストールレポートのアップグレード (Installation/Upgrade report)]を選択します。

カンマで項目を区切ることで、複数のオプションを選択できます。

10 レポートに含めるシステムを指定します (複数可)。

指定したシステムで以前にレポートを実行していた場合は、そのレポートを再び実行するようプロンプトが表示されます。[はい (Yes)]を選択すると、レポートが再実行されます。

ユーティリティによって、セッションのログファイルの場所が再びリストされます。

ユーティリティの進捗状況が画面に表示されます。

11 インストールまたはレポートをアップグレードする製品に関するプロンプトが表示されたら、NetBackup を指定します。

12 インストールする NetBackup のバージョンに対応する数字を入力します。

ユーティリティによって、セッションのログファイルの場所が再びリストされます。

ユーティリティの進捗状況が画面に表示されます。

13 ユーティリティによって、レポートをオンラインで確認する場合には SORT Web サイトにアップロードするよう促すプロンプトが表示されます。オンラインレポートを利用すると、システム上のテキストベースのレポートよりも詳細な情報を入手できます。

14 タスクが完了したら、ユーティリティを終了できます。オプションでツールに関するフィードバックを提供できます。ベリタスはフィードバックを基にツールの改良を実施しています。

SORT のアップグレードのための推奨手順

ベリタスは現在の NetBackup ユーザーに対して、SORT の最初の導入時にリストされる 3 つの手順を実行することをお勧めします。このツールには他にも多くの機能が備わっていますが、これらの手順はすでに NetBackup を使っているユーザーにとって SORT の概要を知る上で役立ちます。さらに、これらの手順を実行することで、その他の SORT 機能に関する有用で基本的な知識が備わります。

表 A-2

手順	詳細
SORT Web ページに Veritas Account を作成します。	p.73 の「 SORT ページに Veritas Account を作成する方法 」を参照してください。
システム固有のアップグレードレポートを作成します。	p.74 の「 システム固有のインストールレポートを作成する方法 (Windows の場合) 」を参照してください。 p.75 の「 システム固有のインストールレポートを作成する方法 (UNIX または Linux の場合) 」を参照してください。
今後のプラットフォームと機能の予定を確認します。	p.77 の「 今後のプラットフォームの変更と機能の予定を確認する方法 」を参照してください。
Hotfix と EEB Release Auditor の情報を確認します。	p.77 の「 Hotfix と EEB の情報を確認する方法 」を参照してください。

今後のプラットフォームの変更と機能の予定を確認する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定 (NetBackup Future Platform and Feature Plans)]ウィジェットを見つけて選択します。
- 3 [情報の表示 (Display Information)]を選択します。
- 4 表示される情報を確認します
- 5 任意 - サインインによる通知の作成 - [サインインによる通知の作成 (Sign in and create notification)]をクリックします。

Hotfix と EEB の情報を確認する方法

- 1 Web ブラウザで、次の場所に移動します:
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- 2 [NetBackup Hotfix と EEB Release Auditor (NetBackup Hot Fix and EEB Release Auditor)]ウィジェットを見つけて選択します。
- 3 Hotfix または緊急エンジニアリングバイナリ (EEB) の情報を入力します。

4 [検索 (Search)]をクリックします。

5 新しいページに、以下の列が含まれた表が表示されます。

EEB 識別子の Hotfix (Hot fix of EEB Identifier)	前の画面で入力した Hotfix または EEB 番号が表示されます。
説明 (Description)	Hotfix または EEB に関連付けられた問題の説明が表示されます。
解決済みのバージョン (Resolved in Versions)	この問題が解決された NetBackup のバージョンが示されます。

NetBackup のインストール要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のインストール要件について](#)
- [NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新](#)
- [NetBackup 8.0 のバイナリサイズ](#)

NetBackup のインストール要件について

今回の NetBackup のリリースには、インストールに必要な最小システム要件と手順への変更が含まれている可能性があります。これらの変更は、Windows と UNIX の両方のプラットフォームの最小システム要件に影響します。『NetBackup リリースノート』のインストール指示に関する多くの情報は、利便性を考慮して提供されています。インストール指示の詳細については、『NetBackup スタートガイド』と『NetBackup インストールガイド』を参照してください。

p.26 の「[NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)」を参照してください。

- NetBackup サーバーソフトウェアをアップグレードする前に、NetBackup カタログをバックアップして、カタログバックアップが正常に終了したことを確認する必要があります。
- データベースの再構築は、多くの場合、NetBackup のメジャー、マイナー（一重ドット）、およびリリース更新（二重ドット）の各バージョンで発生します。したがって、NetBackup 8.0 にアップグレードする前に、NetBackup データベースのサイズ以上の空きディスク領域が利用可能になっている必要があります。つまり、デフォルトインストールに対して、/usr/openv/db/data (UNIX) または
<install_path>%Veritas%NetBackupDB\data (Windows) のディレクトリを含む

ファイルシステムにそれだけの空き領域が必要です。これらのいずれかのディレクトリの一部のファイルの場所を変更する場合は、その場所にファイルのサイズ以上の空き領域が必要です。代替の場所への NBDB データベースファイルの格納の詳細については、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

メモ: この空きディスク領域の要件は、アップグレードを始める前に、カタログバックアップを正常に終了するためのベストプラクティスを実行していることを前提としています。

- マスターサーバーとメディアサーバーでは、**NetBackup** を正常に実行するために、プロセス単位のファイル記述子の最小ソフト制限を **8000** にする必要があります。ファイル記述子の数が不十分な場合の影響の詳細については、ベリタスのサポート Web サイトの次の **TechNote** を参照してください。
<http://www.veritas.com/docs/000013512>
- **Windows 2008/Vista/2008 R2/7** の **UAC** が有効な環境で **NetBackup** をインストールするには、正規の管理者としてログオンする必要があります。管理者グループに割り当て済みであり、正規の管理者ではないユーザーは、**UAC** が有効な環境で **NetBackup** をインストールできません。
管理者グループのユーザーが **NetBackup** をインストールできるようにするには、**UAC** を無効化します。
- **NetBackup** のマスターサーバーとメディアサーバーは、起動時および **24** 時間ごとに **NetBackup** サーバーのバージョン情報を交換します。この交換は自動的に行われます。アップグレード後の起動時に、アップグレードされたメディアサーバーは **vmd** サービスを使って自身のバージョン情報をサーバーリストに示されているすべてのサーバーにプッシュします。
- メディアサーバーのアップグレードの実行中は、マスターサーバーのサービスを起動して利用可能な状態にしておくことをお勧めします。
- すべての圧縮ファイルは **gzip** を使用して圧縮されています。これらのファイルのインストールには **gunzip** と **gzip** が必要なので、**NetBackup** をインストールする前にコンピュータにこれらがインストールされていることを確認します。**HP-UX** を除くすべての **UNIX** プラットフォームでは、バイナリは **/bin** または **/usr/bin** に存在し、このディレクトリが **root** ユーザーの **PATH** 変数に含まれていると想定されています。**HP-UX** システムでは、**gzip** コマンドおよび **gunzip** コマンドは **/usr/contrib/bin** に存在すると想定されています。インストールスクリプトを実行すると、**PATH** 変数にこのディレクトリが追加されます。**UNIX** でインストールを正常に実行するには、これらのコマンドが存在する必要があります。

NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新

NetBackup のサーバーおよびクライアントのインストールは、NetBackup の互換性リストにリストされるオペレーティングシステム (OS) の定義済みセットでのみサポートされます。ほとんどの OS ベンダーが、製品のパッチ、更新、およびサービスパック (SP) を提供しています。プラットフォームのテスト時には OS の最新の SP または更新レベルでテストすることが、NetBackup のクオリティエンジニアリングのベストプラクティスです。したがって、NetBackup はすべてのベンダー GA 更新 (n.1、n.2 など) または SPS (SP1、SP2 など)。ただし、既知の互換性の問題が特定の SP または更新された OS レベルに存在する場合、この情報は互換性リストで特定されます。このような互換性の問題が見られない場合、Veritas 社は、サーバーとクライアントに最新の OS 更新をインストールしてから NetBackup をインストールまたはアップグレードすることをお勧めします。

互換性リストには、最新のメジャーリリースラインでの最小の NetBackup バージョンをサポートするために必要な最小の OS レベルに関する情報が含まれます。場合によっては、NetBackup の新しいリリースが特定のベンダーによる OS 更新またはパッチを必要とすることがあります。表 B-1 は、NetBackup 8.0 で必要な OS 更新およびパッチを示しています。ただし、この情報はリリース間で変わる場合があります。NetBackup 8.0 およびその他の NetBackup リリースに関する最新の必要な OS パッチ情報は、Veritas Services and Operational Readiness Tools (SORT) Web サイトおよび NetBackup 互換性リストで確認できます。

p.87 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

p.71 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

メモ: OS ベンダーは、表 B-1 にリストされているパッチよりも優先されるまたはそれに置き換わるより最新の更新またはパッチをリリースしている可能性があります。ここおよび SORT にリストされている OS パッチは、NetBackup のインストールと実行に必要な最小のパッチレベルであると考えする必要があります。表 B-1 にリストされているものに優先されるまたはそれらに置き換わる OS 更新、パッチ、またはパッチバンドルは、特に指定されていない限りサポートされます。Veritas 社は、個別の OS ベンダーのサポート Web サイトを参照して最新のパッチ情報を入手することをお勧めします。

メモ: 表 B-1 に記載されている NetBackup クライアント向けの必須パッチも、クライアントが適切に動作するためにマスターサーバーとメディアサーバーにインストールする必要があります。

表 B-1 NetBackup 8.0 に必要なオペレーティングシステムパッチと更新

オペレーティングシステムの 種類とバージョン	NetBackup の役 割	パッチ	注意事項
AIX 6.1	マスター、メディア、 クライアント	AIX ランタイムライブラリ 9.0.0.3 以降	ランタイムライブラリは 9.0.0.3 以降で ある必要があります。バージョン 9.0.0.3 に変更した後に再起動する 必要がある場合があります。
HP-UX	マスター、メディア、 クライアント	COMPLIBS.LIBM-PS32	HP-UX プラットフォーム上に AT をイン ストールする場合、このパッチが必要 になります。
HP-UX IA-64	マスター、メディア、 クライアント	Networking.NET-RUN: /usr/lib/libip6.sl	
	マスター、メディア、 クライアント	Networking.NET-RUN-64: /usr/lib/pa20_64/libip6.1	
	マスター、メディア、 クライアント	Networking.NET-RUN-64: /usr/lib/pa20_64/libip6.sl	
	マスター、メディア、 クライアント	Networking.NET-RUN: /usr/lib/hpux32/libip6.so	
	マスター、メディア、 クライアント	Networking.NET-RUN: /usr/lib/hpux32/libip6.so.1	
	マスター、メディア、 クライアント	Networking.NET-RUN: /usr/lib/hpux64/libip6.so	
	マスター、メディア、 クライアント	Networking.NET-RUN: /usr/lib/hpux64/libip6.so.1	
	マスター、メディア、 クライアント	Networking.NET-RUN: /usr/lib/libip6.1	
HP-UX 11.31	メディア (Media)	QPK1131 (B.11.31.1003.347a) パッチバ ンドル	このパッチバンドルは NetBackup メ ディアサーバーのサポートに必要で す。これは HP-UX March 2010 パッ チバンドルです。
Red Hat Enterprise Linux 6	マスター、メディア、 クライアント	glibc-2.12-1.107 またはそれ以 降	
Windows Vista x86 (32 ビット 版)	クライアント	KB936357	Microsoft マイクロコード信頼性更新。

オペレーティングシステムの 種類とバージョン	NetBackup の役 割	パッチ	注意事項
	クライアント	KB952696	暗号化されたファイルをバックアップ するために必要な更新を含んでいま す。
Windows Vista x86-64	クライアント	KB936357	Microsoft マイクロコード信頼性更新。
	クライアント	KB952696	暗号化されたファイルをバックアップ するために必要な更新を含んでいま す。
Windows Server 2008 x86-32	クライアント	KB952696	暗号化されたファイルをバックアップ するために必要な更新を含んでいま す。
Windows Server 2008 x86-64	クライアント	KB952696	暗号化されたファイルをバックアップ するために必要な更新を含んでいま す。
Windows Server 2008 (SP2)	マスター、メディア、 クライアント	KB979612	TCP ループバック遅延と UDP 遅延 を改善するホットフィックス。
Windows Server 2008 R2	マスター、メディア、 クライアント	KB2265716	コンピュータがランダムに応答停止す る場合のホットフィックス。 このパッチが Windows Server 2008 R2 SP1 に含まれていることに注意し てください。
	マスター、メディア、 クライアント	KB982383	ディスク I/O 負荷が大きい状況で I/O パフォーマンスが低下する場合のホッ トフィックス。 このパッチが Windows Server 2008 R2 SP1 に含まれていることに注意し てください。
	マスター、メディア、 クライアント	KB983544	レジストリハイクファイルの「修正日時」 ファイル属性の更新。 このパッチが Windows Server 2008 R2 SP1 に含まれていることに注意し てください。

オペレーティングシステムの種類とバージョン	NetBackup の役割	パッチ	注意事項
	マスター、メディア、クライアント	KB979612	TCP ループバック遅延と UDP 遅延を改善するホットフィックス。 このパッチが Windows Server 2008 R2 SP1 に含まれていることに注意してください。

- ベリタスは、Windows オペレーティングシステムで NetBackup を実行する場合は、次の Microsoft の更新をお勧めします。
 - Microsoft Storport の Hotfix。この Hotfix は、Windows x86 および x64 の SP1 と SP2 の両方に適用されます (必須)。
<http://support.microsoft.com/?id=932755>
 - Microsoft マイクロコード信頼性更新。この Hotfix は、32 ビット版と 64 ビット版の Windows Server /Vista に適用されます (推奨)。
<http://support.microsoft.com/?kbid=936357>
 - Veritas AntiVirus。最新版と最新アップデートへの更新 (必須)。
 - SYMEVENT ドライバの更新 (必須)。最新バージョンのドライバに更新してください。

NetBackup 8.0 のバイナリサイズ

表 B-2 には、NetBackup 8.0 マスターサーバー、メディアサーバー、およびサポートされているさまざまなオペレーティングシステム対応のクライアントソフトウェアに対する概算バイナリサイズが示されています。これらのバイナリサイズは、初回インストール後に製品が占有するディスク容量を示します。

メモ: 表 B-2 および表 B-3 は、サポートされているオペレーティングシステムのためのリストになっています。NetBackup が現在サポートしている最新のオペレーティングシステムのバージョンについては、Symantec Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトの『インストールとアップグレードのチェックリスト』か『オペレーティングシステム互換性リスト』(<http://www.netbackup.com/compatibility>) を参照してください。

p.71 の「Veritas Services and Operations Readiness Tools について」を参照してください。

表 B-2 互換性のあるプラットフォームの NetBackup のバイナリサイズ

OS	CPU アーキテクチャ	32 ビットのクライアント	64 ビットのクライアント	64 ビットのサーバー	注意事項
AIX	POWER		2704 MB	8019 MB	
Canonical Ubuntu	x86-64		1820 MB		
CentOS	x86-64		1150 MB	7223 MB	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Debian GNU/Linux	x86-64		1853 MB		
HP-UX	IA-64		3097 MB	9110 MB	
OpenVMS	IA-64		128MB		表示されているサイズは、NetBackup 7.5 バイナリ用です。OpenVMS の NetBackup 8.0 バイナリは提供されません。
Oracle Linux	x86-64		1122 MB	7226 MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	x86-64		1151 MB	7226 MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	z/Architecture		946 MB	4091 MB	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Solaris	SPARC		1922 MB	6837 MB	
Solaris	x86-64		1879 MB	6559 MB	
SUSE Linux Enterprise Server	x86-64		1127 MB	7080 MB	
SUSE Linux Enterprise Server	z/Architecture		940 MB	4042 MB	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Windows	x86-32	334 MB			互換性のあるすべての Windows x86 プラットフォームが含まれます。

OS	CPU アーキテクチャ	32 ビットのクライアント	64 ビットのクライアント	64 ビットのサーバー	注意事項
Windows	x86-64		623 MB	3762 MB	互換性のあるすべての Windows x64 プラットフォームが含まれます。

次の領域の要件は **Windows** に **NetBackup** をインストールする場合にも適用される場合があります。

- **Windows** システム上のデフォルトではない場所に **NetBackup** をインストールする場合、ソフトウェアの一部はアプリケーションフォルダのプライマリの場所に関係なく、システムドライブにインストールされます。システムドライブ上で必要な領域は通常、[表 B-2](#) にリストされている合計バイナリサイズの **40～50%** になります。
- **NetBackup** サーバーを **Windows** クラスタにインストールする場合、ソフトウェアの一部はクラスタの共有ディスクにインストールされます。クラスタの共有ディスク上で必要な領域は、[表 B-2](#) にリストされているバイナリサイズに加えて必要なものです。必要な追加領域は合計バイナリサイズの **15～20%** です。

NetBackup OpsCenter

[表 B-3](#) には、**NetBackup OpsCenter 8.0** と互換性がある各種のオペレーティングシステム用の **OpsCenter Agent**、サーバー、および **ViewBuilder** のおおよそのバイナリサイズが含まれます。

表 B-3 互換性のあるプラットフォームの NetBackup OpsCenter のバイナリサイズ

OS	CPU アーキテクチャ	エージェント	サーバー	ViewBuilder
Oracle Linux	x86-64		707 MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	x86-64		707 MB	
SUSE Linux Enterprise Server	x86-64		701 MB	
Windows Server	x86-64	241 MB	649 MB	223 MB

NetBackup プラグイン

NetBackup vCenter Web Client プラグインと **NetBackup System Center Virtual Machine Manager アドイン**用ディスク容量要件は、『**NetBackup Plug-in for VMware vSphere Web Client ガイド**』および『**Microsoft SCVMM コンソール用 NetBackup アドインガイド**』にそれぞれ記載されています。

NetBackup の互換性の要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の互換性リストと情報について](#)
- [NetBackup の End-of-Life のお知らせについて](#)

NetBackup の互換性リストと情報について

『NetBackup リリースノート』のドキュメントには、NetBackup のバージョン間で実施された大量の互換性の変更に関する記述が含まれています。ただし、プラットフォーム、周辺機器、ドライブ、ライブラリの最新の互換性情報は、NetBackup の Veritas Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトにあります。

p.71 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup では、SORT によって、インストールとアップグレードのチェックリストのレポートと、既存の複数の環境にわたりホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。さらに、ご使用の環境にインストールした Hotfix や EEB がどのリリースに含まれているかを特定できます。このデータを使って、システムで特定のリリースのインストールまたはアップグレードを行う準備ができているか評価します。

NetBackup 互換性リスト

SORT に加えて、Veritas はお客様がすぐに NetBackup の最新の互換性情報を参照できるようさまざまな互換性リストを提供しています。これらの互換性リストは次の場所にある Veritas のサポート Web サイトで見つけることができます。

<http://www.netbackup.com/compatibility>

メモ: 相互に互換性のある NetBackup のバージョンについての情報が必要な場合は、互換性リストから[NetBackup のバージョン間の互換性 (Compatibility Between NetBackup Versions)]を選択してください。

NetBackup の End-of-Life のお知らせについて

ベリタス社は多種多様なシステム、プラットフォーム、オペレーティングシステム、CPU アーキテクチャ、データベース、アプリケーション、ハードウェアに対し、可能なかぎり優れたデータ保護を提供することに取り組んでおります。ベリタス社は、今後も **NetBackup** システムのサポートを見直してまいります。これにより、製品の既存のバージョンの保守と、以下についての新しいサポートの導入とを適切なバランスで行っていくことができます。

- **General Availability** リリース
- 新しいソフトウェアおよびハードウェアの最新バージョン
- 新しい **NetBackup** の機能

ベリタス社が新しい機能とシステムのサポートを絶え間なく追加していく一方で、**NetBackup** のサポートの中には改善、置換、削除が必要なものもあります。これらのサポート処理は、古い、またはあまり使われない機能に影響することがあります。影響を受ける機能には、ソフトウェア、OS、データベース、アプリケーション、ハードウェア、サードパーティ製品との統合に関するサポートが含まれることがあります。また、場合によっては製造元によるサポートが終了しているか、サポート期間終了間際の製品が含まれる場合もあります。

ベリタス社は **NetBackup** のさまざまな機能のサポートに変更があった場合でもお客様に支障のないように詳細な通知を提供してサポートいたします。ベリタス社は、**NetBackup** の次のリリースでサポートされない古い製品機能、システム、サードパーティ製のソフトウェア製品をリスト化していく予定です。可能であれば、ベリタスによって、メジャーリリースの前に最低 6 カ月で可能なかぎり早くこれらのサポートリストを利用できるようにします。

SORT の利用

今後のプラットフォームおよび End-of-Life (EOL) 情報を含む機能サポートの詳細な通知は、Veritas Operations Readiness Tools (SORT) for NetBackup のホームページにあるウィジェットから入手できます。SORT for NetBackup のホームページにある [NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定 (NetBackup Future Platform and Feature Plans)]ウィジェットは、次の場所から直接見つけることができます。

<https://sort.veritas.com/nbufutureplans>

NetBackup の End-of-Support-Life (EOSL) 情報は、次の場所から入手することもできます。

https://sort.veritas.com/eosl/show_matrix

p.71 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

プラットフォーム互換性の変更について

NetBackup 8.0 リリースには、さまざまなシステムのサポートにおける変更も実装されています。SORT の利用に加え、『NetBackup リリースノート』ドキュメントおよび NetBackup の互換性リストを確認してから、NetBackup ソフトウェアをインストールまたはアップグレードする必要があります。

p.15 の「NetBackup の新しい拡張と変更について」を参照してください。

<http://www.netbackup.com/compatibility>

他のNetBackup マニュアル および関連マニュアル

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の関連マニュアルについて](#)
- [NetBackup リリースノートについて](#)
- [NetBackup 管理者ガイドについて](#)
- [NetBackup のインストールマニュアルについて](#)
- [NetBackup の構成マニュアルについて](#)
- [NetBackup のトラブルシューティングマニュアルについて](#)
- [その他の NetBackup のマニュアルについて](#)

NetBackup の関連マニュアルについて

メモ: UNIX に関するすべての内容は、特に指定しないかぎり、Linux プラットフォームにも適用されます。

ベリタスは、NetBackup ソフトウェアに関連するさまざまなガイドと技術マニュアルをリリースしています。これらのドキュメントはリリース形式にしたがって NetBackup の新しいバージョン向けに公開されています。

特に指定のないかぎり、NetBackup マニュアルは次の場所から PDF 形式でダウンロードできます。

<http://www.veritas.com/docs/000003214>

メモ: ベリタスは、PDF リーダーソフトウェアのインストールおよび使用に関する責任を負いません。

NetBackup リリースノートについて

NetBackup ソフトウェアには、次のリリースノートドキュメントが公開されています。

- **NetBackup リリースノート**
このマニュアルには、UNIX と Windows のプラットフォーム両方に対応する NetBackup の今回のリリースに関するさまざまな情報が含まれています。この情報には、新しい機能、プラットフォームの互換性の変更、パッチの必要条件、マニュアルの修正、既知の問題が含まれていますが、これらに限定されるものではありません。NetBackup のマニュアルやオンラインヘルプの他の場所で見つからない可能性がある操作上の注意事項も含まれています。
- **NetBackup Emergency Engineering Binary ガイド**
次のドキュメントには、すでに特定、解決され、NetBackup ユーザーが Emergency Engineering Binary (EEB) の形式で利用可能になった既知の問題の一部が示されています。ここには、指定のリリースで修正されているが、EEB では修正されなかった可能性のある問題の一部が示されています。

NetBackup 管理者ガイドについて

次の管理者ガイドが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup 管理者ガイド Vol. 1**
このマニュアルでは、UNIX または Windows サーバー上で NetBackup を構成して管理する方法について説明します。このマニュアルでは、NetBackup インターフェースについてと、ホスト、ストレージデバイスとメディア、ストレージライフサイクルポリシー (SLP)、バックアップ、レプリケーション、監視と報告を構成する方法について説明します。
- **NetBackup 管理者ガイド Vol. 2**
このマニュアルでは、NetBackup のための追加の構成とインターフェースオプションについて説明します。このマニュアルには、NetBackup ライセンスについての参照項目と情報も含まれています。

NetBackup オプションの管理について

NetBackup オプションの次の管理者ガイドが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup AdvancedDisk ストレージソリューションガイド**

このガイドでは、**NetBackup AdvancedDisk** ストレージオプションを構成、管理、トラブルシューティングする方法について説明します。**NetBackup** に公開されているディスクストレージをバックアップ用のファイルシステムとして使う方法について説明します。

- **NetBackup Bare Metal Restore 管理者ガイド**
このガイドでは、サーバーのリカバリ処理を自動化して簡素化するために **NetBackup BMR (Bare Metal Restore)** ブートサーバーとクライアントのインストール、構成、管理を行う方法について説明します。
- **NetBackup クラウド管理者ガイド**
このガイドでは、**Veritas OpenStorage** を使ってクラウドの **STaaS (Storage as a Service)** ベンダーからデータのバックアップとリストアを行うために **NetBackup** を構成し、管理する方法について説明します。
- **NetBackup DataStore SDK プログラマガイド XBSA**
このガイドでは、**XBSA API** を設定して **NetBackup** と通信するアプリケーションのバックアップを作成したり、アプリケーションをアーカイブしたりするために使う方法について説明します。
- **NetBackup 重複排除ガイド**
このガイドでは、**NetBackup** メディアサーバー重複排除オプションを使って **NetBackup** 環境のデータ重複排除を計画、構成、移行、監視、管理する方法について説明します。
- **NetBackup ログリファレンスガイド**
このガイドでは、**NetBackup** 管理コンソールからレポートを実行する方法やログがシステムのどこに保存されているかなど、直面する問題をトラブルシューティングする場合に役立つ各種の **NetBackup** のログやレポートについて説明します。
- **ディスクの NetBackup OpenStorage のソリューションガイド**
このガイドでは、**NetBackup** でバックアップ用にインテリジェントディスクアプライアンスを構成し、使用する方法について説明します。
- **NetBackup for VMware 管理者ガイド**
このガイドでは、**VMware ESX** サーバーで動作する **VMware** 仮想マシンのオフホストバックアップのような機能を実行するために **NetBackup** を構成する方法について説明します。
- **NetBackup Plug-in for VMware vSphere Web Client**
このガイドでは、**NetBackup** 用の **vSphere Web Client** プラグインをインストールしてトラブルシューティングする方法について説明します。**vSphere Web Client** プラグインを使うと、**vCenter** サーバーが管理する仮想マシンのバックアップの監視、バックアップからの仮想マシンのリカバリ、**VM** のバックアップ状態や関連メッセージの監視が可能です。
- **NetBackup Plug-in for VMware vCenter ガイド**

このガイドでは、仮想マシンのバックアップを監視して仮想マシンをリストアするために **NetBackup vCenter** プラグインをインストールし、使用方法について説明します。

- **NetBackup for Hyper-V 管理者ガイド**
 このガイドでは、**Windows Hyper-V** サーバーで動作する仮想マシンのスナップショットベースのバックアップポリシーを構成して管理する方法について説明します。
- **NetBackupAdd-in for Microsoft SCVMM Console ガイド**
 このガイドでは、**NetBackup Add-in for SCVMM (System Center Virtual Machine Manager)** をインストールしてトラブルシューティングする方法や、**NetBackup** バックアップイメージから仮想マシンをリストアする場合にこのアドインを使う方法について説明します。
- 『**NetBackup for NDMP 管理者ガイド UNIX、Windows および Linux**』
 このガイドでは、**NAS (Network Attached Storage)** システムのバックアップとリストアを開始し、制御するために **NetBackup for NDMP (Network Data Management Protocol)** をインストール、構成、使用方法について説明します。
- 『**NetBackup Replication Director ソリューションガイド**』
 このガイドでは、**NetBackup OpenStorage** の管理対象スナップショットとスナップショットレプリケーションの実装方法について説明します。スナップショットはパートナー企業のストレージシステムに格納されます。
- **NetBackup SAN クライアントおよびファイバートランスポートガイド**
 このガイドでは、ファイバートランスポート方式を使ってクライアントバックアップを高速化するために **NetBackup SAN** クライアントの機能を設定、構成、管理する方法について説明します。
- **NetBackup Snapshot Client 管理者ガイド**
 このガイドでは、**VMware、Hyper-V、Replication Director** との統合などのさまざまなスナップショットベース機能を有効にするために **NetBackup Snapshot Client** をインストール、構成、使用方法について説明します。
- **NetBackup Vault 管理者ガイド**
 このガイドでは、オフサイトメディアストレージのためにバックアップイメージの選択と複製を自動化するように **NetBackup Vault** をインストール、構成、使用方法について説明します。
- **NetBackup Vault 操作ガイド**
 このガイドでは、**NetBackup Vault** を使って 2 つの主要な作業分野 (管理と操作) の一部としてメディアを **Vault** 処理する方法について説明します。説明する作業には、オフサイトにテープを送付し、サイトでテープを受け取り、オフサイトメディアと **Vault** ジョブでレポートを実行する手順が含まれます。
- **NetBackup WebSocket サービス (NBWSS) リファレンスガイド**

このガイドはクラウドアプリケーションと通信するために NetBackup WebSocket サービス (NBWSS) を使用する方法について、および NBWSS 用に WebSocket エンドポイントを設定する方法について説明します。

- **NetBackup OpsCenter 管理者ガイド**
 このマニュアルでは、NetBackup OpsCenter ユーザーインターフェースを使って NetBackup とそのエージェントとオプションについてのレポート、監視、警告を提供する方法について説明します。
- **NetBackup OpsCenter レポートガイド**
 このガイドでは、NetBackup OpsCenter を使って包括的なビジネスレベルのレポートを生成して使用し、データバックアップ操作やアーカイブ操作の有効性をトラッキングする方法について説明します。
- **NetBackup OpsCenter パフォーマンスチューニングガイド**
 このパフォーマンスと調整のマニュアルは、OpsCenter のパフォーマンスを分析、評価、調整する管理者を対象にしています。このマニュアルは、OpsCenter が最大のパフォーマンスを実現するように調整する方法、バックアップ環境に応じて OpsCenter に採用するシステム構成、向上した OpsCenter のパフォーマンスにかなうベストプラクティスについてアドバイスすることを意図しています。

NetBackup データベースエージェントの管理について

NetBackup データベースエージェントの次の管理者ガイドが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup for DB2 管理者ガイド**
 このガイドでは、NetBackup for DB2 データベースエージェントをインストール、構成、使用する方法について説明します。
- **NetBackup for Enterprise Vault Agent 管理者ガイド**
 このガイドでは、Veritas Enterprise Vault の構成情報とアーカイブデータを保護するために NetBackup for Enterprise Vault Agent をインストール、構成、使用する方法について説明します。
- **NetBackup for Informix 管理者ガイド**
 このガイドでは、UNIX 版 NetBackup クライアント上で Informix データベースのバックアップとリストアを行うために NetBackup for Informix エージェントをインストール、構成、使用する方法について説明します。
- **NetBackup for Lotus Notes 管理者ガイド**
 このガイドでは、NetBackup クライアントで Lotus Notes データベースとトランザクションログのバックアップとリストアを行うために NetBackup for Lotus Notes エージェントを構成し、使用する方法について説明します。
- 『NetBackup for Microsoft Exchange Server 管理者ガイド』

このガイドでは、Microsoft Exchange Server のオンラインバックアップとリストアを行うために NetBackup for Exchange Server エージェントを構成し、使用する方法について説明します。

- **NetBackup for Microsoft SQL Server 管理者ガイド**
 このガイドでは、Microsoft SQL Server データベースとトランザクションログのバックアップとリストアを行うために NetBackup for Microsoft SQL Server エージェントを構成し、使用する方法について説明します。
- **『NetBackup for Microsoft SharePoint Server 管理者ガイド』**
 このガイドでは、Windows 版 NetBackup クライアント上の SharePoint データベースのバックアップとリストアを行うために NetBackup for SharePoint Server エージェントを構成し、使用する方法について説明します。
- **NetBackup for Oracle 管理者ガイド**
 このガイドでは、NetBackup クライアント上の Oracle データベースのバックアップとリストアを行うために NetBackup for Oracle エージェントを構成し、使用する方法について説明します。
- **NetBackup for SAP 管理者ガイド**
 このガイドでは、NetBackup クライアント上の SAP データベースと SAP HANA データベースのバックアップとリストアを行うために NetBackup for SAP エージェントを構成し、使用する方法について説明します。
- **NetBackup for Sybase 管理者ガイド**
 このガイドでは、NetBackup クライアント上の Sybase データベースのバックアップとリストアを行うために NetBackup for Sybase エージェントを構成し、使用する方法について説明します。

NetBackup のインストールマニュアルについて

次のインストールマニュアルが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup アップグレードガイド**
 このマニュアルは、NetBackup ソフトウェアのアップグレードの計画と実施を支援します。このマニュアルは最新情報を提供するために定期的に更新されます。
- **NetBackup インストールガイド**
 このマニュアルでは、UNIX や Windows のプラットフォームに NetBackup サーバー、クライアント、管理ソフトウェアをインストールする方法について説明します。
- **NetBackup LiveUpdate ガイド**
 このマニュアルでは、環境内の NetBackup ソフトウェアリリースの配布に関するポリシーに基づいた方法を提供するための NetBackup LiveUpdate サーバーを設定する方法を説明します。

NetBackup の構成マニュアルについて

NetBackup オプションの次の構成ガイドが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup デバイス構成ガイド。**
このガイドでは、**NetBackup** サーバー用に使うストレージデバイスホストのオペレーティングシステムを設定し、構成する方法について説明します。

NetBackup のトラブルシューティングマニュアルについて

次のトラブルシューティングガイドが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup トラブルシューティングガイド**
このガイドは、一般的なトラブルシューティングに関する情報を提供し、**NetBackup** 製品と機能のために使えるさまざまなトラブルシューティング方法を説明します。
- **NetBackup 状態コードリファレンスガイド**
このガイドには、**NetBackup**、**Media Manager**、デバイス構成、デバイス管理、ロボットエラーの状態コードの完全なリストが記載されています。各状態コードのリストには説明と推奨処置が含まれています。

その他の NetBackup のマニュアルについて

次のマニュアルが、NetBackup ソフトウェア用として公開されています。

- **NetBackup コマンドリファレンスガイド**
このガイドには、**NetBackup** のマニュアルページのコマンドすべてを含む、UNIX システムと Windows システムで動作するコマンドについての詳細情報が含まれます。
- **NetBackup マスターサーバーのクラスタ化管理者ガイド**
このガイドでは、クラスタで **NetBackup** マスターサーバーをインストールして構成する方法について説明します。
- **NetBackup 高可用性の環境管理者ガイド**
このガイドでは高可用性環境で **NetBackup** を使う各種方式を説明し、単一障害点から **NetBackup** を保護するためのガイドラインを示します。
- **NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド**
このガイドでは、アクセス制御、強化された認可と認証、暗号化を使って **NetBackup** を保全する方法について説明します。
- **NetBackup ネットワークポートリファレンスガイド**

このガイドでは、マスターサーバーとメディアサーバーのポート、クライアントポート、デフォルトポート、その他の NetBackup が使うポートを含む NetBackup ネットワークポートの参照情報を示します。

- **NetBackup スタートガイド**

このガイドでは、NetBackup のこのリリースと関連しているインストール前の情報についての概要を提供します。ガイドにはまた、NetBackup メディアキット、NetBackup 電子ソフトウェア配布 (ESD) イメージ、NetBackup ライセンスキーの要件の説明も含まれます。

- **NetBackup バックアップ、アーカイブおよびリストアスタートガイド**

このマニュアルでは、NetBackup の新規ユーザーを対象に、基本的なバックアップおよびリストアの手順について説明します。これらの手順には、コンピュータ上に存在するファイル、フォルダまたはディレクトリ、ボリュームまたはパーティションをバックアップ、アーカイブ、リストアする方法も含まれます。

- **NetBackup サードパーティの法的通知**

この文書には、Veritas NetBackup 製品と OpsCenter 製品に關係するサードパーティプログラム (適用される場合) の所有権通知とサードパーティプログラムのライセンスが含まれます。